

北竜町地域公共交通計画（改定）

北 竜 町

令和7年2月改訂

目次

第1章 計画策定の目的と構成	1
1-1. 計画策定の目的.....	1
1-2. 計画の構成.....	2
第2章 既往資料による地域及び公共交通の概要	3
2-1. 地域及び公共交通の概要.....	3
(1) 気象.....	3
(2) 人口.....	4
(3) 産業.....	8
(4) 主要な道路網.....	9
(5) 公共・公益施設.....	10
(6) 公共交通等の状況.....	11
2-2. 上位関連計画等による公共交通の位置づけ.....	20
(1) 北竜町総合計画.....	20
(2) 北竜町まち・ひと・しごと創生総合戦略.....	22
第3章 地域公共交通実態調査	23
3-1. 住民アンケート調査目的・内容.....	23
(1) 目的.....	23
(2) 調査の概要.....	23
(3) 配付・回収方法.....	24
(4) 配付・回収のスケジュール.....	24
(5) 配付・回収数.....	24
(6) 調査結果の概要.....	25
3-2. バス乗降調査.....	39
(1) (深川) 北竜線.....	39
第4章 地域公共交通の課題整理	41
4-1. 主要な課題の整理.....	41
(1) 時間帯により異なる輸送人数に対応する輸送形態の採用.....	41
(2) 深川・滝川方面への将来的な直行便の運行検討.....	41
(3) 利用人数の大小、様々な運行時間帯及び行先に対応できる輸送体制の確立.....	41
(4) 様々な輸送業務を補い合う運行管理体制の確立.....	41
(5) 普通免許においても安全で安心な輸送が可能な運行支援システムの導入.....	42
4-2. 計画策定の方向性.....	43
(1) 自家用車を用いた住民ドライバーによる自宅前送迎の検討.....	43
(2) 町営バス北竜妹背牛線の増便と美葉牛への延伸.....	43
(3) 町内輸送資源の一体化・輸送システムの導入検討.....	43
第5章 地域公共交通計画の策定	44
5-1. 計画の基本的な方針.....	44
(1) 目指すべき将来像・基本方針.....	44

(2) 計画の区域	45
(3) 計画の期間	45
(4) 公共交通の機能分担と性格・役割	45
5-2. 計画の目標	48
(1) 基本目標	48
(2) 評価指標・目標値	49
5-3. 計画に位置づける取組み及び実施主体	52
(1) 持続可能な地域公共交通体系の確立	53
(2) 自家用車から公共交通への転換を促進する	59
(3) 地域公共交通への愛着を創出する	62
5-4. 計画の進行管理	64
(1) 取組みの期間	64
(2) 計画の達成状況の評価	65

第1章 計画策定の目的と構成

1-1. 計画策定の目的

北竜町は北海道空知総合振興局管内の北部に位置し、人口1,622人（令和6年5月1日現在）、総面積158.70km²で、西部は暑寒別岳を主峰とする増毛山脈がそびえ、東部は農耕に適した平坦地が広がっています。町内の交通状況は国道275号が南北に、国道233号と主要道道増毛稲田線が東西に貫き、地域中心都市である滝川市と深川市にはそれぞれ国道275号と国道233号によりアクセスしています。

本町の人口推移と高齢化の状況は、国勢調査ベースで人口推移が10年間で21%、20年間では33%減少、高齢化率は10年間で6ポイント、20年間で16ポイント増加し、令和2年では45%と人口減少及び高齢化が進行する地域です。

公共交通は北海道中央バス(株)の高速るもい号、沿岸バス(株)・道北バス(株)の留萌旭川線、平成26年度から地域内フィーダー系統として本格運行している乗合タクシーが3区域とスクールバス3路線による市町村運営有償運送並びに、北竜町福祉有償運送により輸送を行っています。また、令和4年4月からは北海道中央バス(株)滝川北竜線の廃止に伴う町営バス北竜追分線、令和6年4月から空知中央バス(株)（深川）北竜線の廃止に伴い、町営バス北竜追分線を変更するかたちで町営バス北竜妹背牛線が運行していますが、より住民ニーズと合致した運行内容の見直しが求められています。

このため、住民アンケート調査を実施し、住民ニーズに配慮した町営バス北竜妹背牛線を検討することにより、北竜町にふさわしい公共交通体系を再構築し、滝川市及び深川市などの他市町村との連携による交通圏全体を見据えた北竜町地域公共交通計画を策定します。

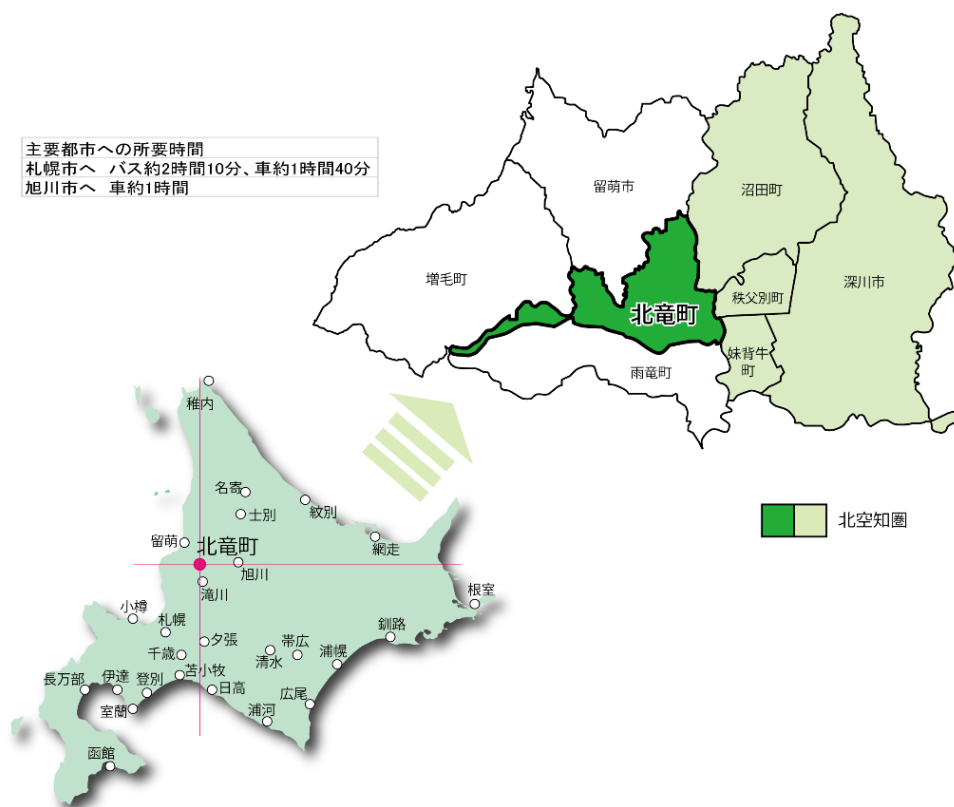


図 位置図

1-2. 計画の構成

本計画の構成は、以下のとおりです。

第1章 計画策定の目的と構成

1-1. 計画策定の目的

1-2. 計画の構成



第2章 既往資料による地域及び公共交通の概要

2-1. 地域及び公共交通の概要

2-2. 上位関連計画等による公共交通の位置づけ



第3章 地域公共交通実態調査

3-1. 住民アンケート調査目的・内容

3-2. バス乗降調査※



第4章 地域公共交通の課題整理

4-1. 主要な課題の整理

4-2. 計画策定の方向性



第5章 地域公共交通計画の策定

5-1. 計画の基本的な方針

5-2. 計画の目標

5-3. 計画に位置づける取組み及び実施主体

5-4. 計画の進行管理

※空知中央バス(株)による乗降調査結果を使用

第2章 既往資料による地域及び公共交通の概要

2-1. 地域及び公共交通の概要

(1) 気象

気候は内陸性気候であり、冬季は南西風が多く寒冷で、積雪が1mを超えますが、夏季は比較的温暖な地域となっています。

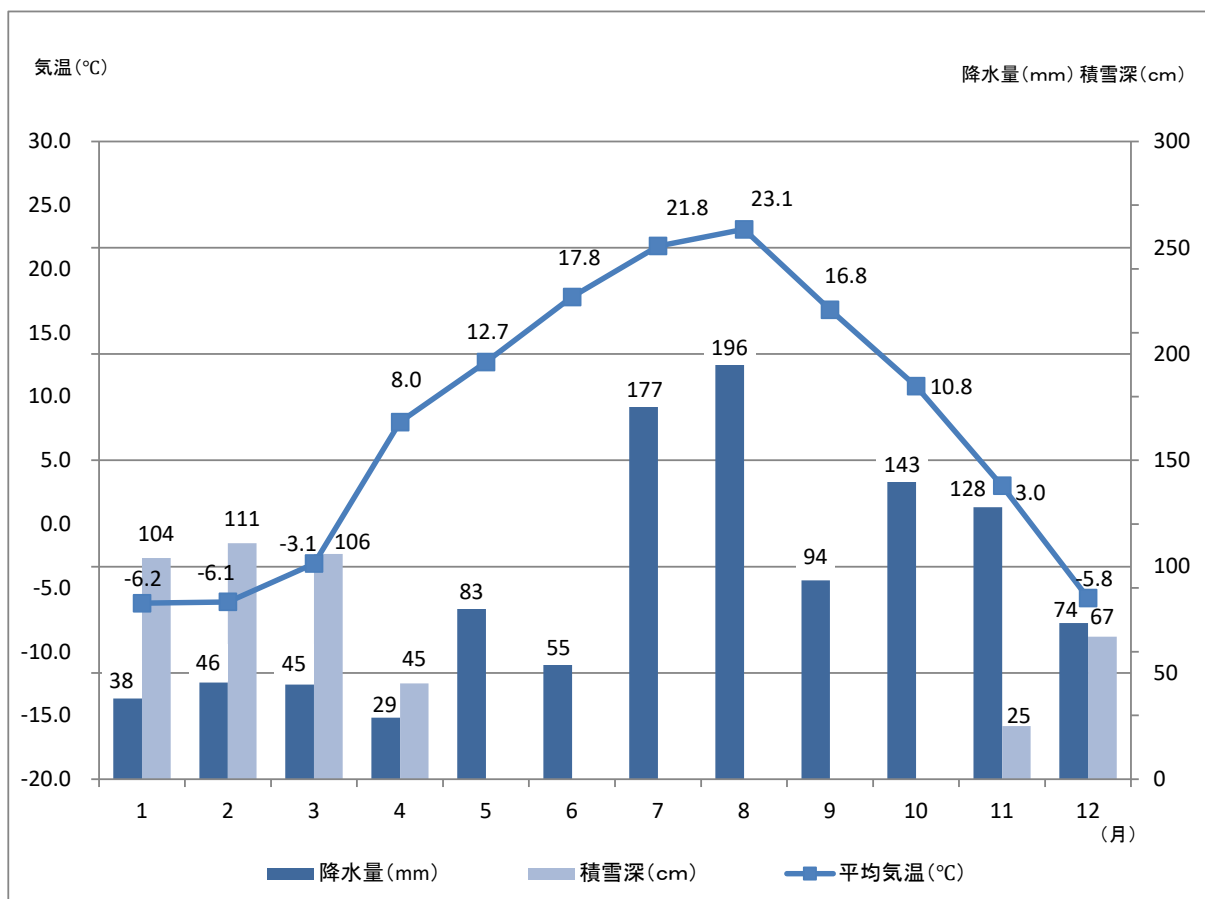


図 気象

資料：気象庁気象観測統計 2024年（深川市）

(2) 人口

①人口・世帯数の推移

人口は令和2年が1,724人となっており、昭和60年の3,266人と比較すると35年間で47.2%が減少しています。また世帯数は令和2年が737世帯となっており、昭和60年の873世帯と比較すると35年間で16%が減少しています。

世代別比率は65歳以上の高齢者比率が令和2年で45.0%となっており、昭和60年の15.9%と比較すると35年間で29.1ポイントが増加しています。一方15歳未満の若年者比率は令和2年が9.4%となっており、昭和60年の19.4%と比較すると35年間で10.0ポイントが減少しています。

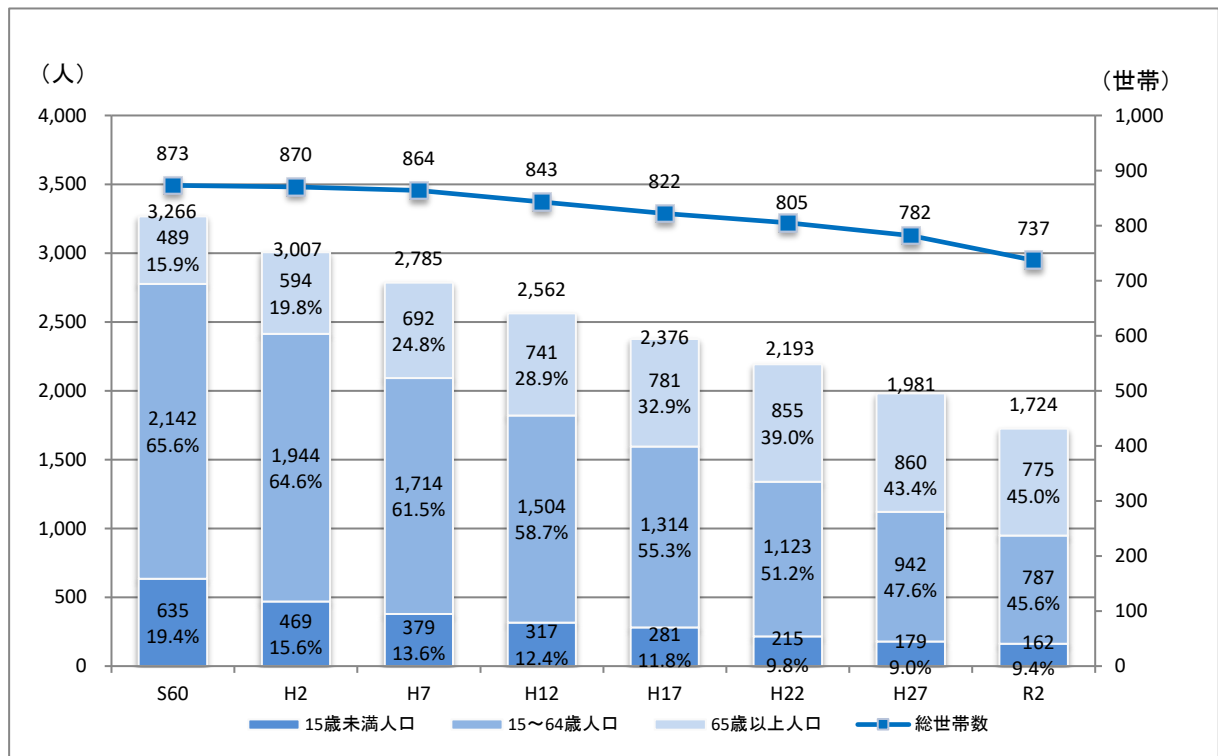


図 世代別人口・世帯数の推移

資料：各年国勢調査

②行政区別高齢者比率

行政区別の高齢者比率は「碧水」「岩村」がランク 6 (50%～) と最も高く、続いて「美葉牛」「西川」「三谷」「恵岱別」及び「和」がランク 5 (40～50%) となっています。

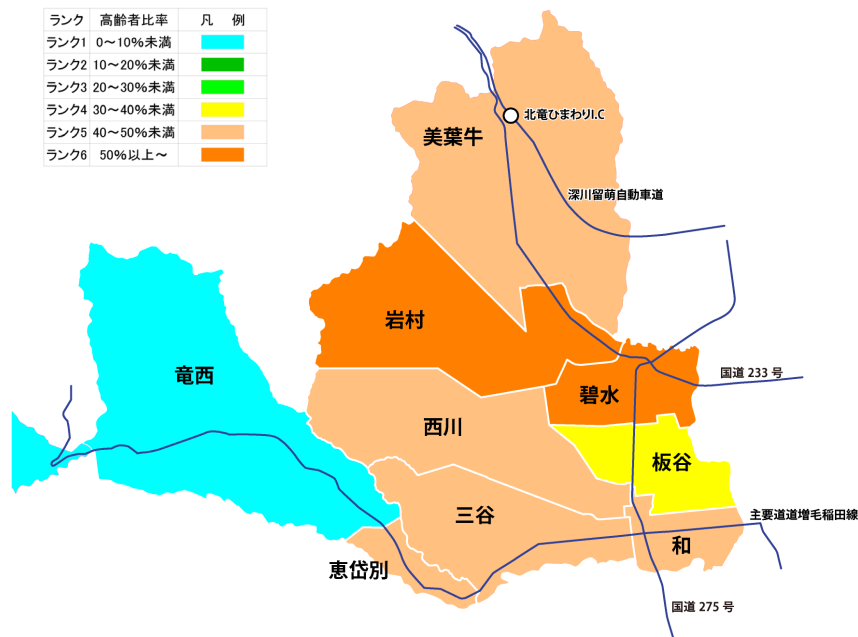


図 行政区別高齢者比率

資料：令和 2 年国勢調査

③行政区別若年者比率

行政区別の若年者比率は「板谷」「岩村」及び「恵岱別」がランク 4 (15～20%) と最も高くなっています。

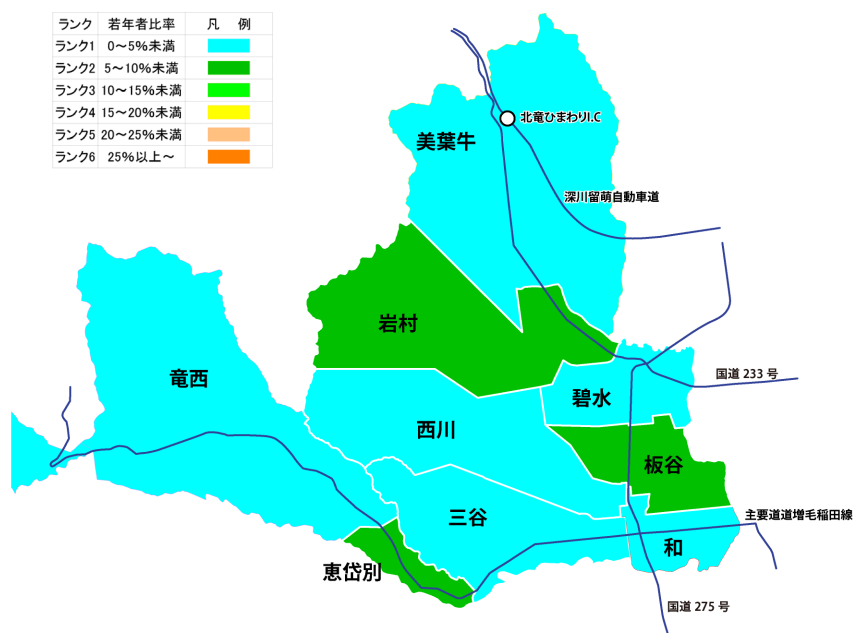


図 行政区別若年者比率

資料：令和 2 年国勢調査

④ 従業地・通学地の状況

1) 従業地

北竜町在住者は深川市への通勤が多く、深川市在住者についても同数程度が通勤している。続いて滝川市への通勤が多く、滝川市在住者からの通勤も多い状況となっています。

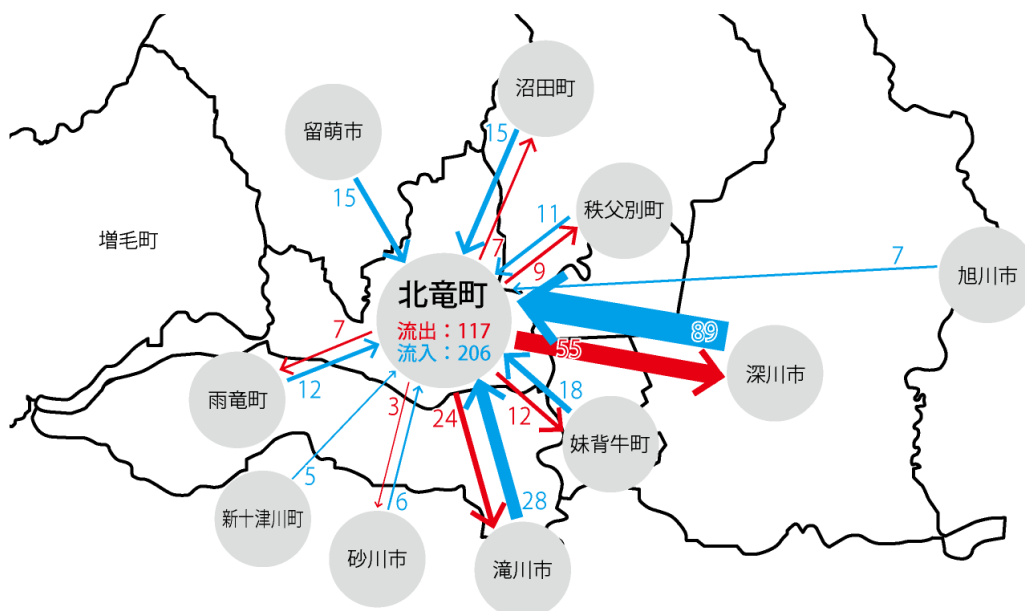


図 従業地

資料：令和2年国勢調査

2) 通学地

北竜町の15歳以上の通学者は、深川市が39人と最も多く、他は滝川市への通学が17人となっています。



図 通学地

資料：令和2年国勢調査

⑤ 高校別生徒数と今後の高校生徒数の見込み

高校別の生徒数は深川西高等学校が 17 人と最も多く、続いて滝川高等学校が 4 人の順となっています。

令和 6 年 5 月の住民基本台帳における今後の高校生徒数の見込みは、令和 6 年の生徒数に対して 0.76 から 0.55 で推移すると思われます。

表 高校別生徒数

市町名	学校名	生徒数（人）
深川市	深川西高等学校	17
	クラーク記念国際高等学校	1
	小計	18
滝川市	滝川高等学校	4
	滝川西高等学校	2
	小計	6
旭川市	旭川龍谷高校	1
	星槎国際高等学校	1
	小計	2
雨竜町	雨竜高等養護学校	2
合計		28

資料：北竜町（令和 6 年度）

表 今後の高校生徒数の見込み

年齢	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
10	6	6	6	6	6	6	6
11	12	12	12	12	12	12	12
12	9	9	9	9	9	9	9
13	11	11	11	11	11	11	11
14	5	5	5	5	5	5	5
15	19	19	19	19	19	19	19
16	10	10	10	10	10	10	10
17	8	8	8	8	8	8	8
18	13	13	13	13	13	13	13
19	9	9	9	9	9	9	9
20	9	9	9	9	9	9	9

項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
高校生	31	37	34	35	25	32	27
伸び率 (R6比)	1.00	1.19	1.10	1.13	0.81	1.03	0.87

資料：住民基本台帳（令和 6 年 5 月 1 日）

(3) 産業

①農業

農業産出額は概ね2,400百万円から2,900百万円で推移しています。

北竜町の主要な農産品は「米」となっており、農業産出額の8割を占めます。

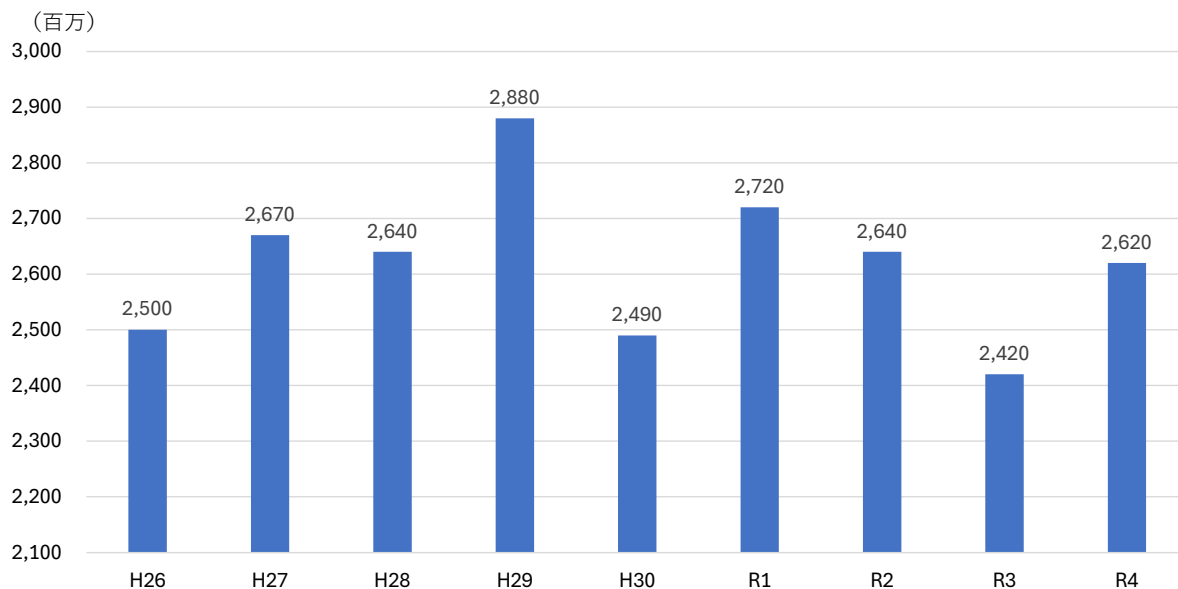


図 農業産出額（推計）の推移

資料：農林業センサス結果等を活用した市町村別農業産出額の推計結果（農林水産省）

②商業

商店数、従業者数及び商品販売額とも減少傾向を示しています。

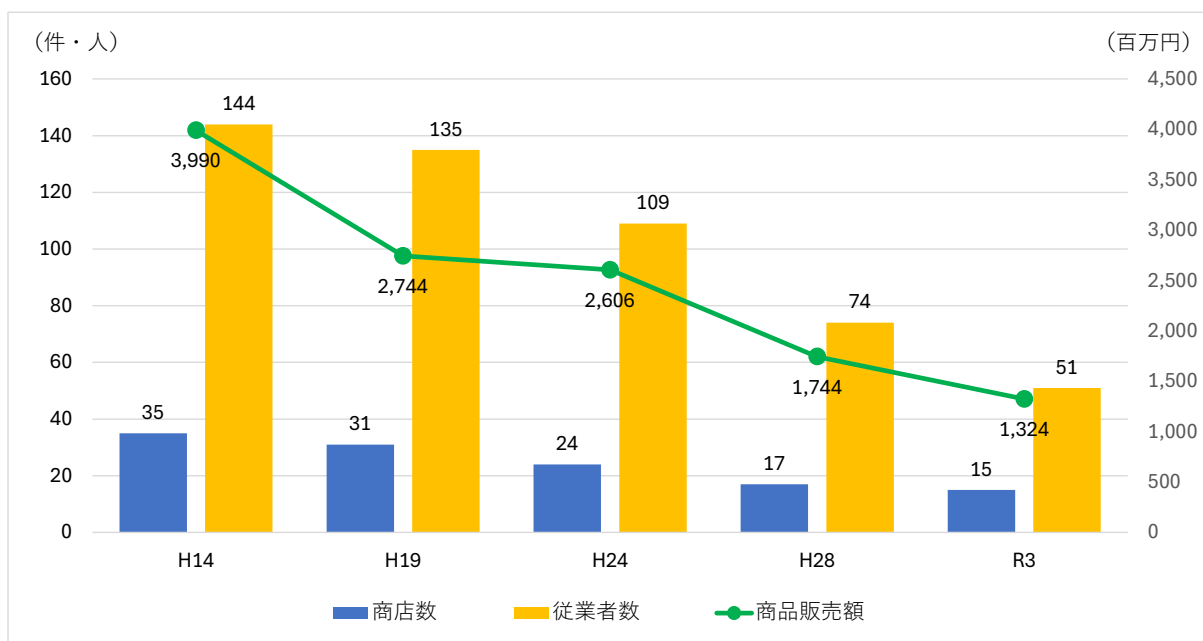


図 商品販売額等の推移

資料：商業統計、商業センサス

(4) 主要な道路網

町域の北部には深川留萌自動車道が東西に貫き、北端には北竜ひまわり IC が設置されています。

北竜町の主要な道路は国道 275 号が南北に貫いているとともに、国道 233 号と主要道増毛稲田線は東西に貫いています。その他一般道道主要町道により道路網が形成されています。

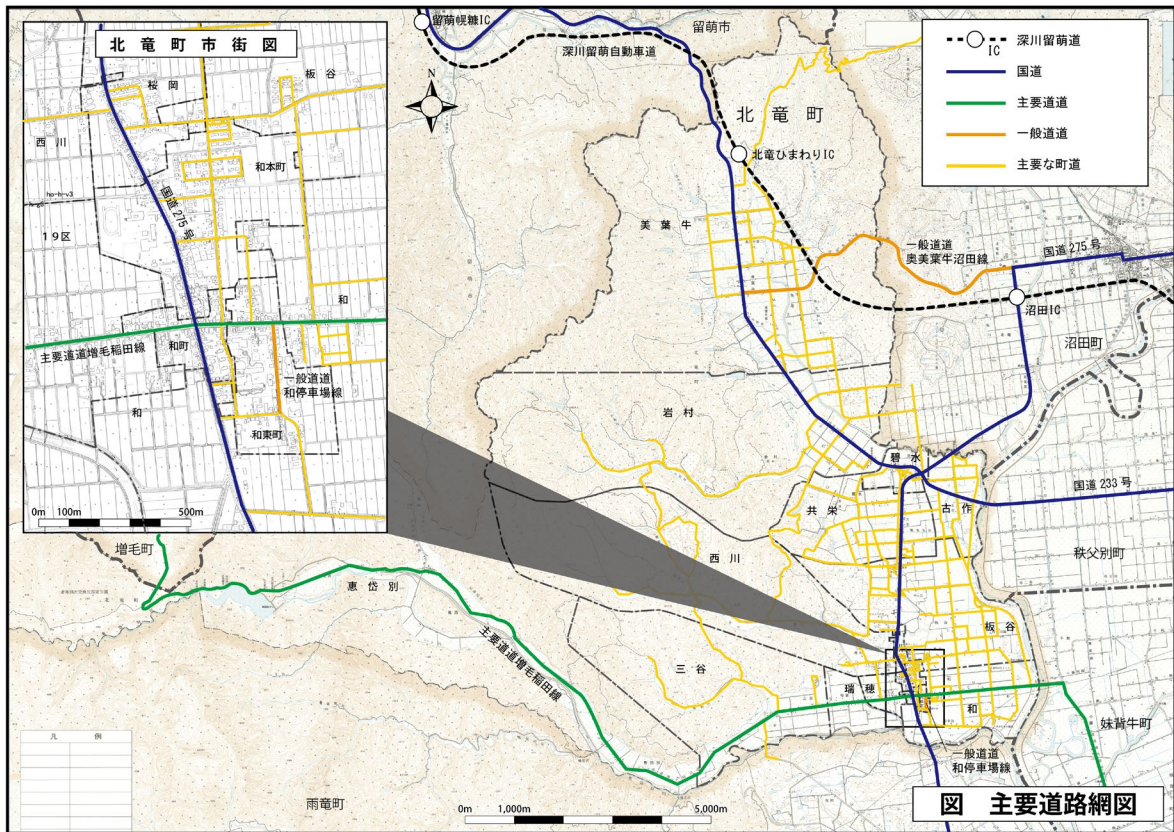


図 主要道路網図

(5) 公共・公益施設

公共・公益施設は、和市街地周辺、サンフラワーパーク北竜温泉及び碧水市街地周辺に集積しています。

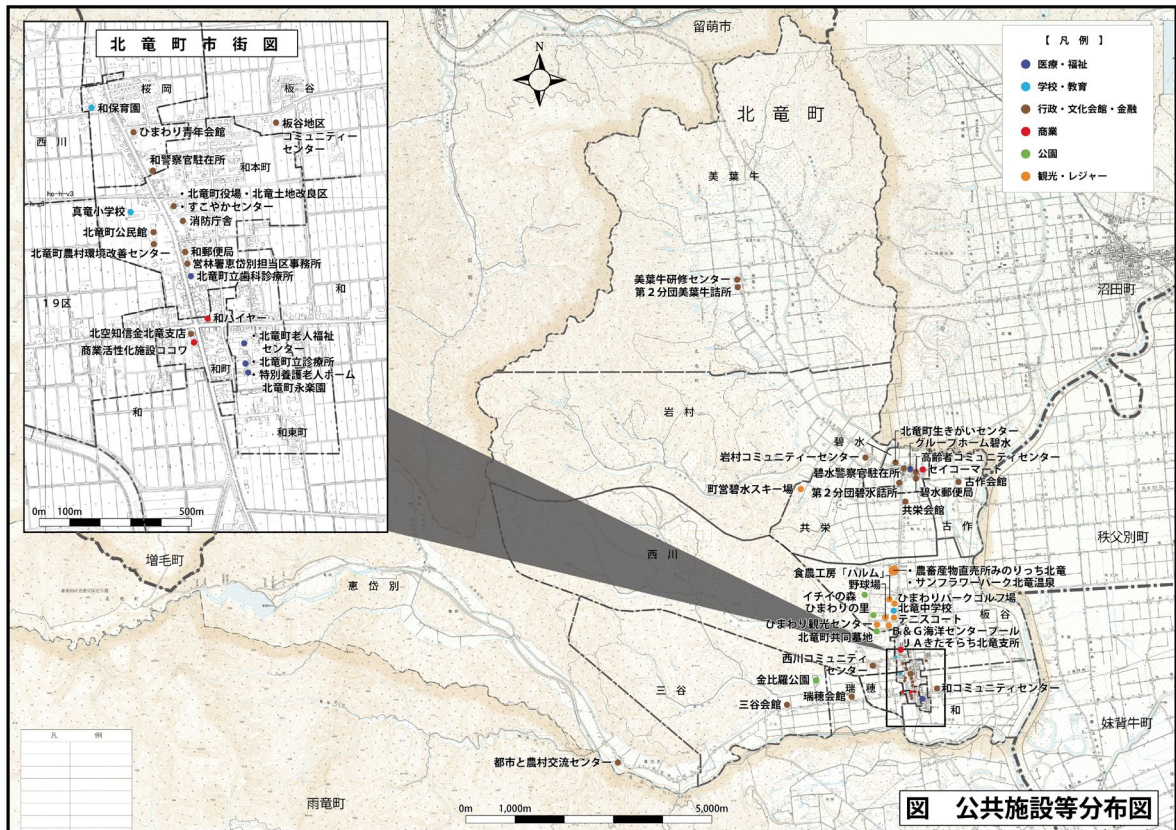


図 公共・公益施設分布図

資料：北竜町

②民間バス路線の輸送人数

深川滝川線は、平成 22 年度が約 24 万人と大きく増加しましたが、令和 5 年度では約 12 万人に減少し、平成 20 年度比で 24 ポイント減少となっています。留萌旭川線は、平成 28 年度が約 13 万人とピークで、令和 5 年度では約 5 万人に減少し、平成 20 年度比で 62 ポイント減少となっています。

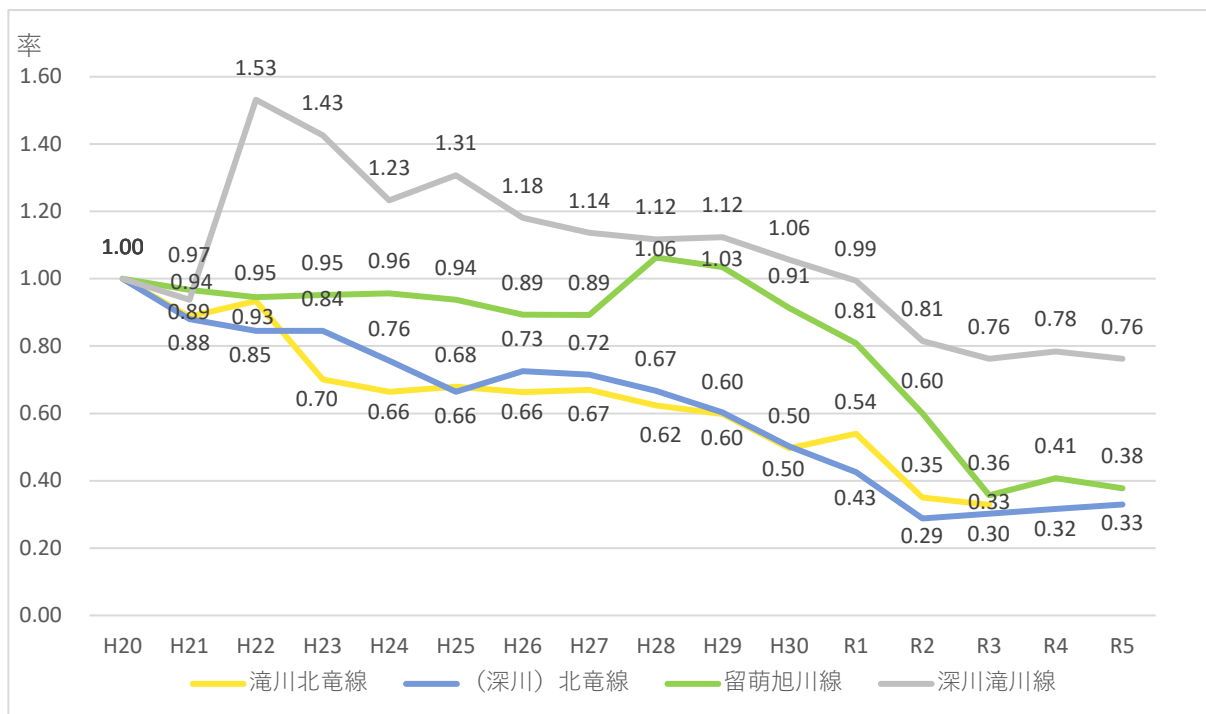
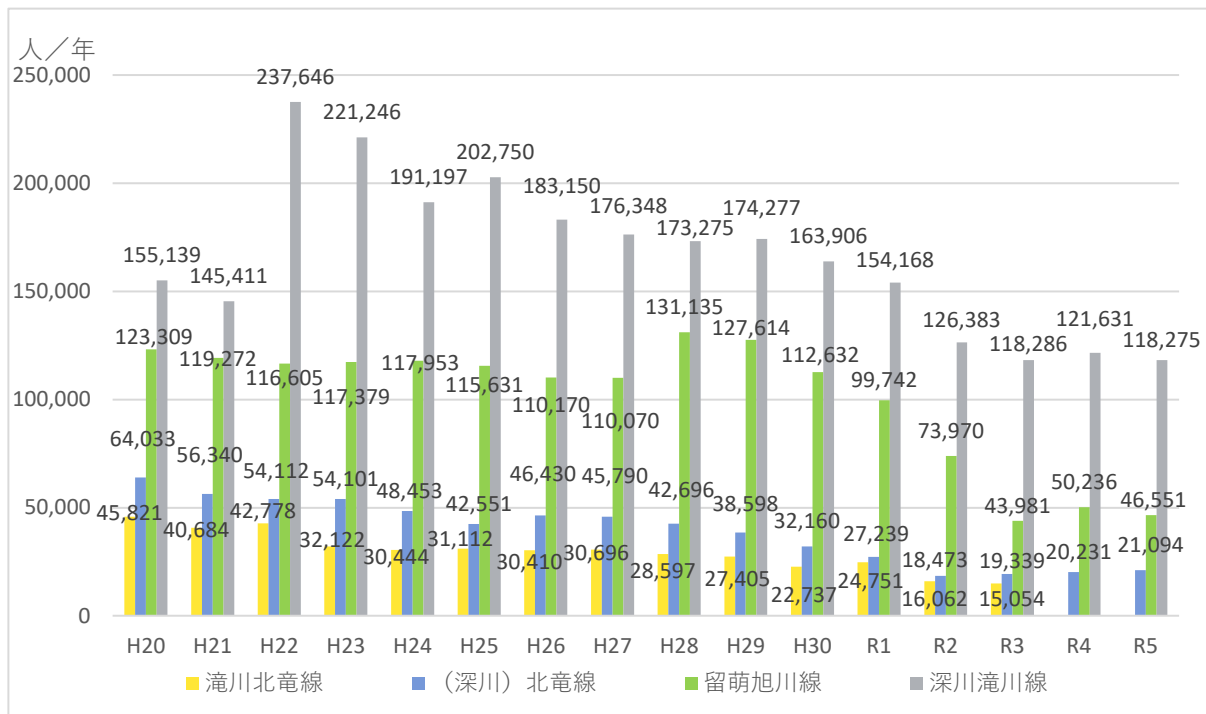


図 民間路線バス輸送人数等の推移

資料：北海道中央バス(株)、空知中央バス(株)、沿岸バス(株)・道北バス(株)

③町営バス

町営バス北竜妹背牛線は、本町と函館本線妹背牛駅間において空知中央バス（深川）北竜線の廃止に伴う代替交通として令和6年4月から運行を開始しました。12月までで月別の最大輸送人数は5月の655人、最低輸送人数は夏期休暇がある8月の325人で、年換算は6,444人となります。

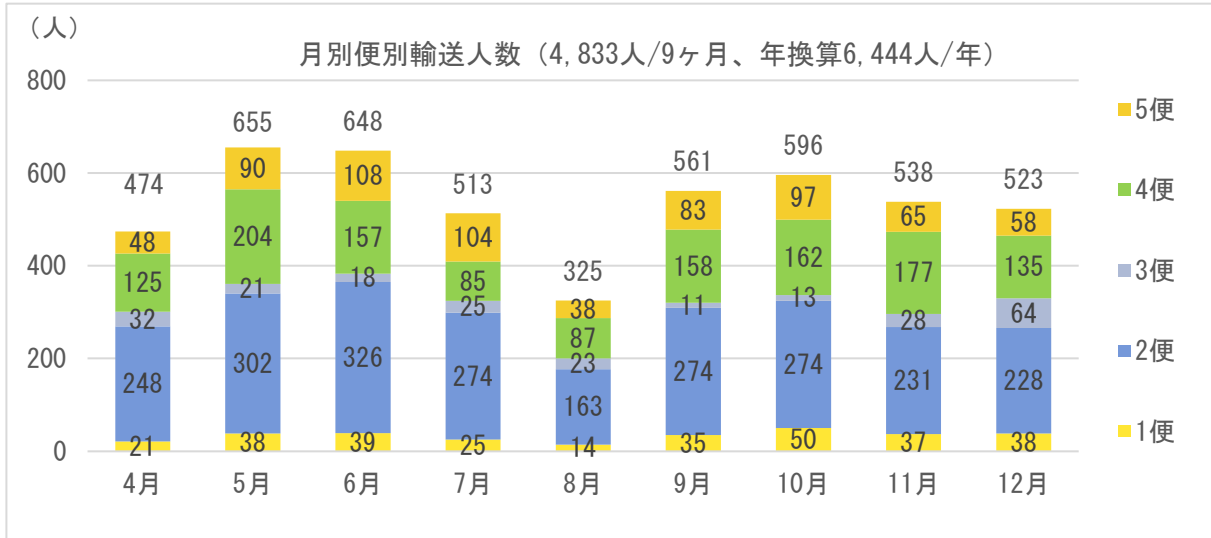


図 月別便別輸送人数の推移

便当たりの乗車人数は、平日の定時便が第1便で1人、第2便で12人、第4便の復路が8人及び第5便の復路が3人乗車で最も多くなっています。予約便の運行状況は、第3便が187便中で28便、第4便の復路が187便中で12便の利用がありました。

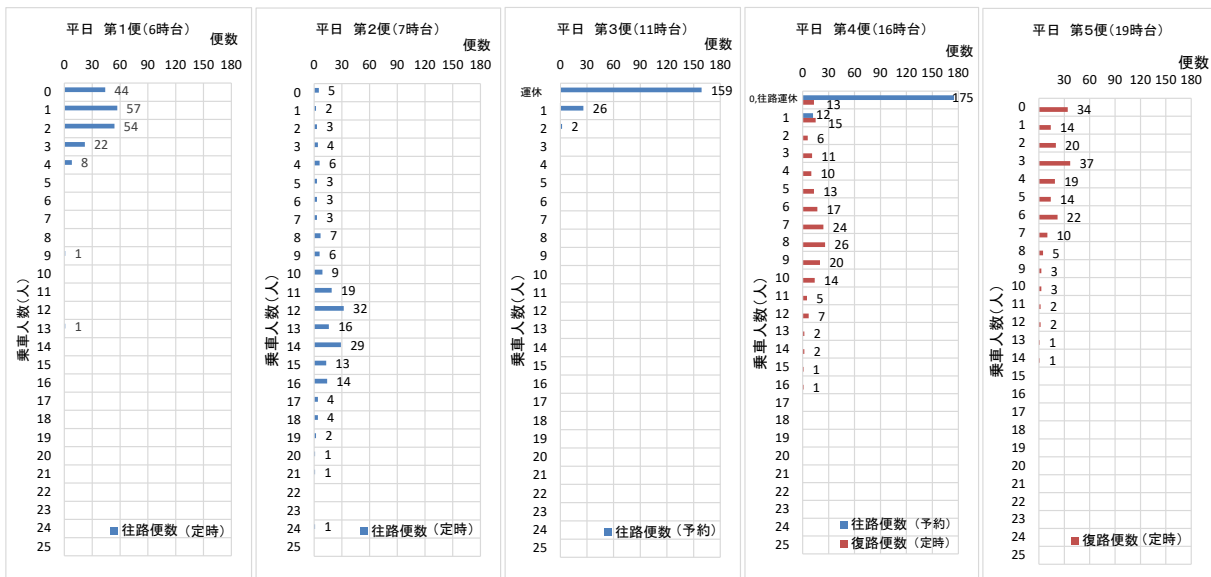


図 便当たり輸送人数別運行便数（平日）

土曜は定時の第1便は全便0人で、第2便では1人が最も多く、予約の運行状況は第3便が37便中で往路が3便、復路が8便、第4便が37便中で往路が4便、復路が29便で利用がありました。

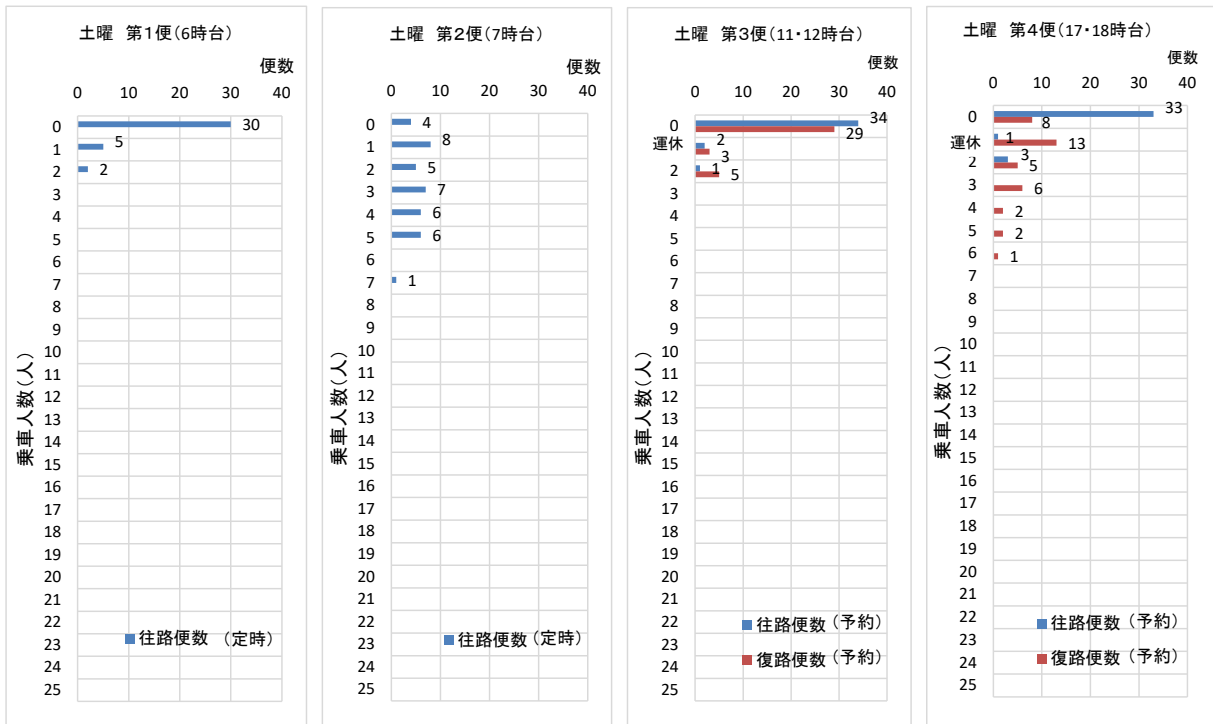


図 便当り輸送人数別運行便数（土曜日）

日曜・祝日は全て予約便となっており、各便50便中で第1便が2便、第2便が17便、第3便の往路が2便、復路が1便、第4便の往路が1便及び復路が5便で利用がありました。

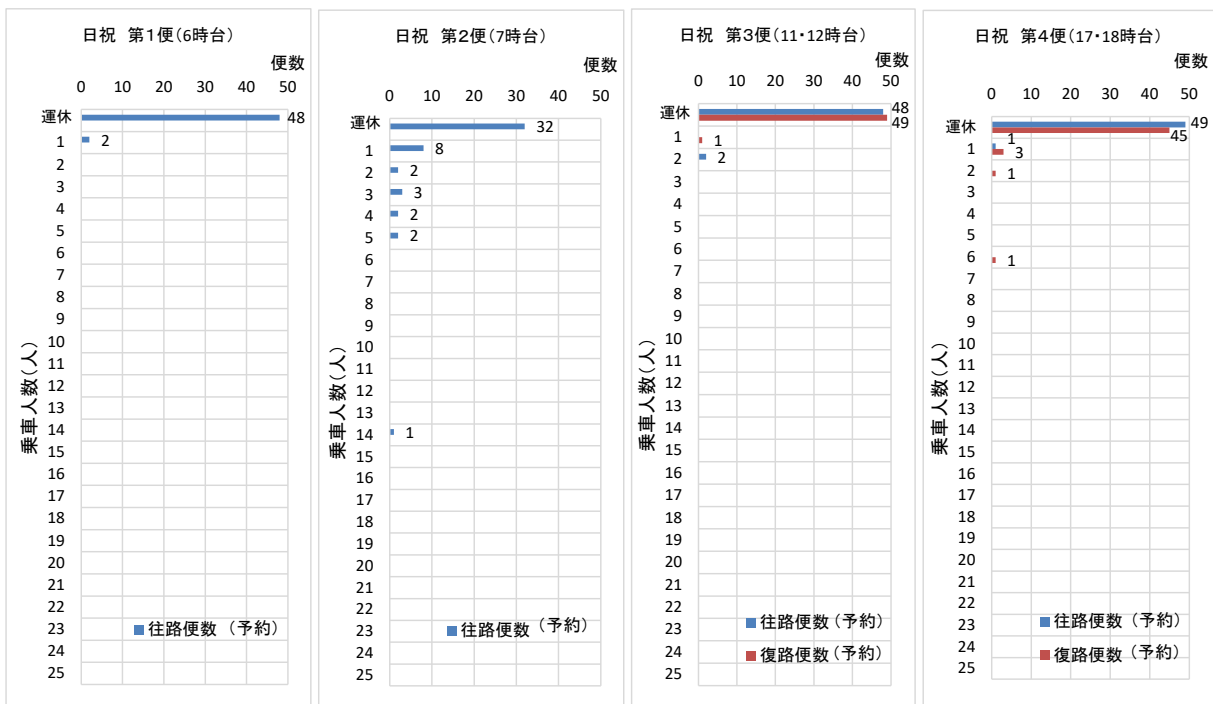


図 便当り輸送人数別運行便数（日曜・祝日）

④乗合タクシー

乗合タクシーは、和ハイヤー(有)がハイヤー車両を用い利用登録者の自宅前と市街地中心部等に設定している連絡施設 18 箇所との間及び連絡施設間を輸送するもので、「美葉牛碧水方面」と「竜西和方面」の2方面と「連絡施設間運行便」の運行を行っています。2方面の運行便数はともに平日・土曜日往路・復路とも2便となっています。「連絡施設間運行便」は平日・土曜日2便が運行しています。

輸送人数は、令和3年度以降減少していますが、通年で運行を開始した平成27年度と比較し、令和5年度は2.45倍の2,322人となっています。

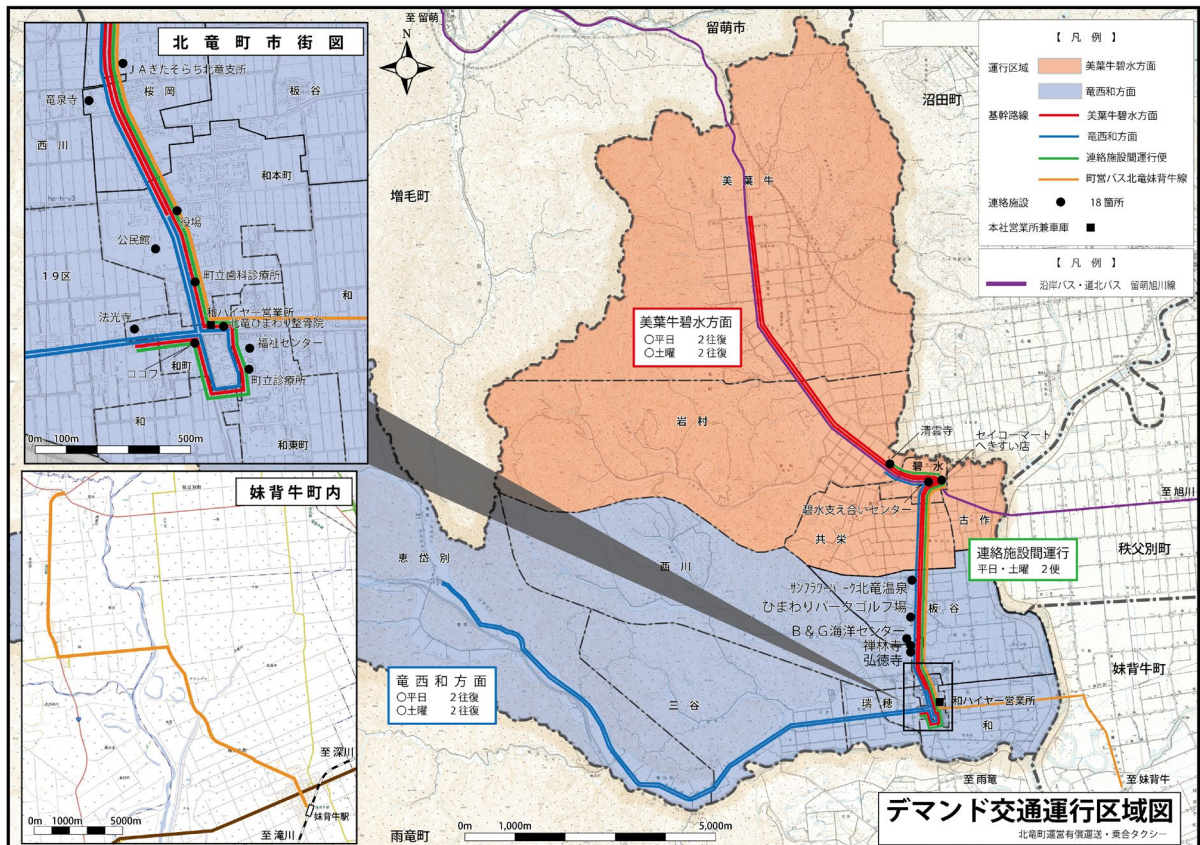


図 乗合タクシー運行区域図

資料：北竜町（令和6年4月現在）

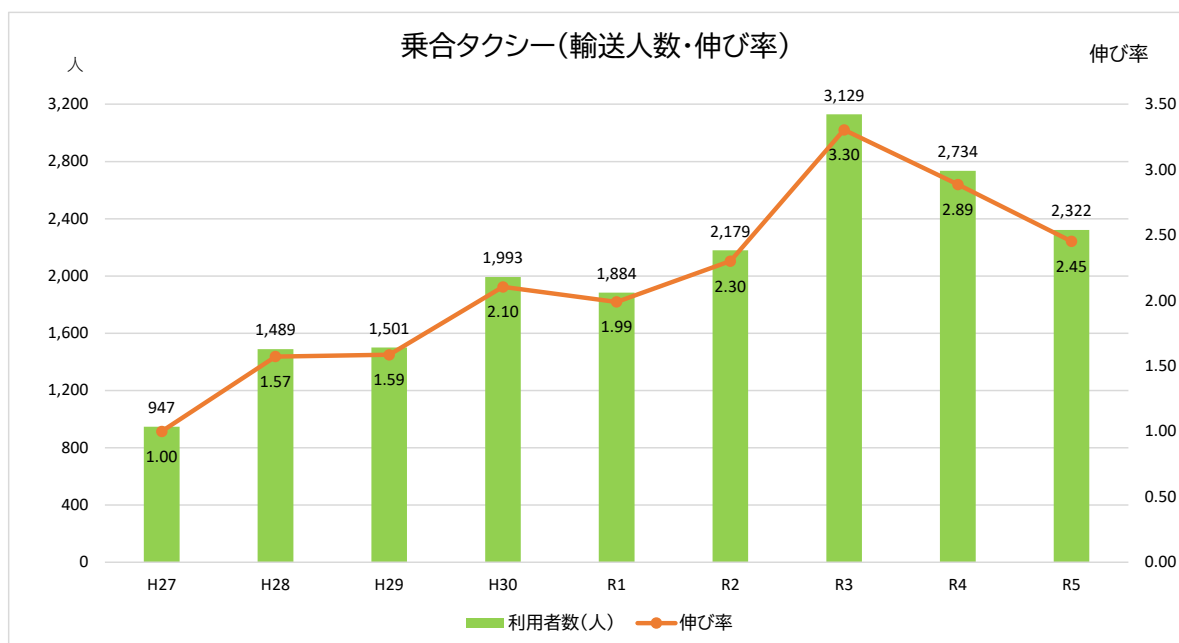


図 乗合タクシー輸送人数の推移

資料：北竜町、和ハイヤー(有)

⑤スクールバス

1)スクールバス路線・輸送人数

スクールバスは小学生と中学生の児童生徒の登下校だけではなく、北竜町運営有償運送により住民の輸送を行っています。バス路線は美葉牛線、碧水線及び竜西線の3路線となっていますが、少子化の影響によりバスに空席が目立つようになってきています。一般の輸送人数は減少しつつも令和5年度では1,909人が乗車しています。

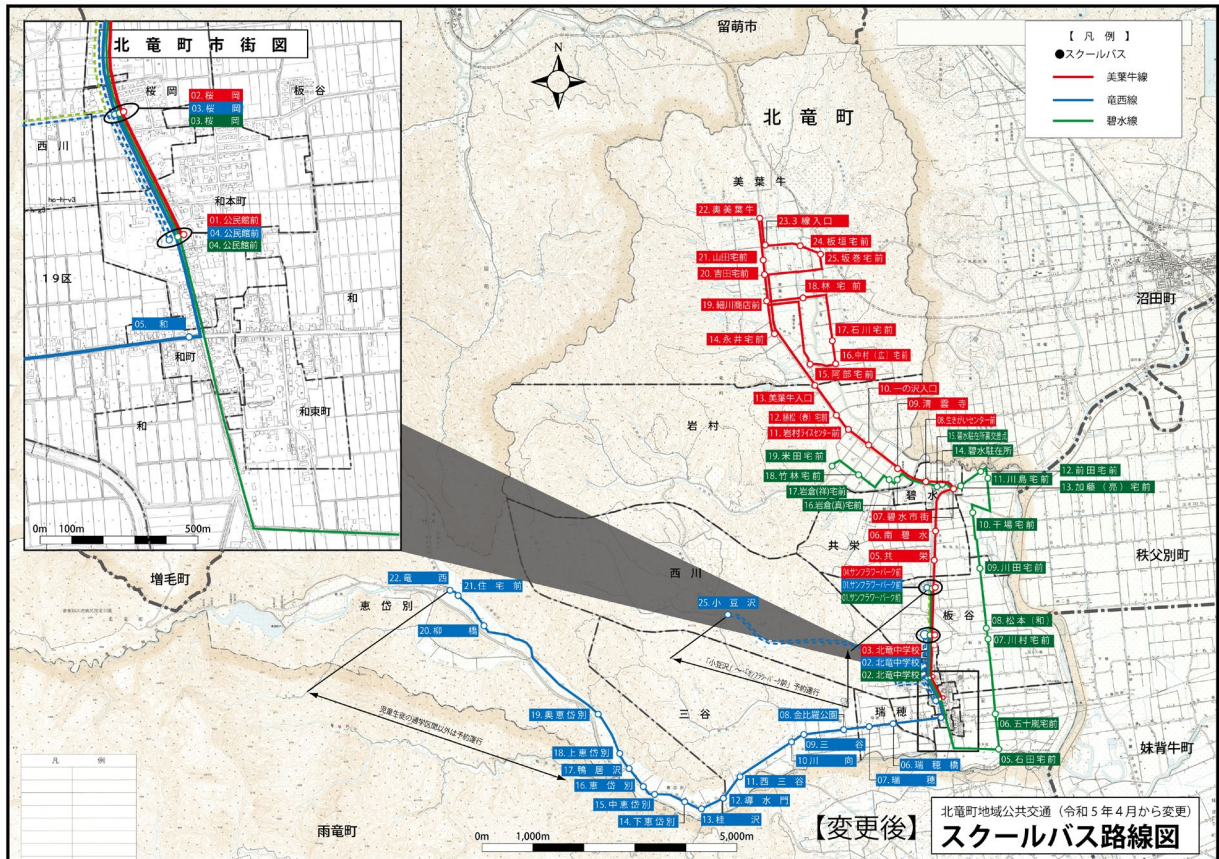


図 スクールバス路線網図

資料:北竜町(令和6年4月現在)

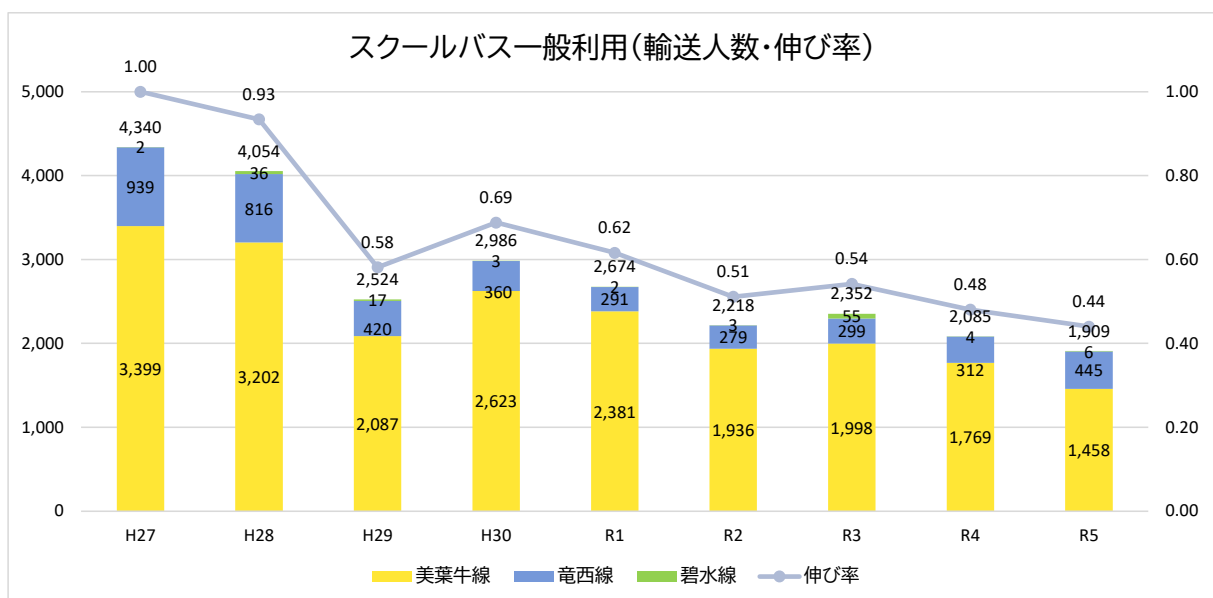


図 スクールバス一般利用輸送人数の推移

資料:北竜町

⑥公共交通の収支状況

地域間幹線系統及び広域生活交通路線は、収益率が 0.29 から 0.46 で、深川滝川線については事業者負担額が約 19,000 千円となっています。

地域内フィーダー系統など町内の輸送が主な路線は、収益率が 0.01 から 0.10 となっているもののスクールバス普通交付税額が経常費用の 1.46 倍となっているため、実質的に経常費用を超える収入で他の交通手段を支える状況となっています。

また、令和 6 年度以降は（深川）北竜線の廃止に伴い約 3,500 千円の町負担がなくなるため今年度よりも収支の改善が見込まれます。

表 公共交通の収支現況

区分	路線名	支出	収入					収入計
		経常費用	経常収益	国・道補助金等	市町村補助金等	内、北竜町	事業者負担	
地域間幹線系	沿岸バス(株) 留萌旭川線	84,346	38,736	20,524	24,085	1,000	1,001	84,346
		1.00	0.46	0.24	0.29	0.01	0.01	1.00
広域生活交通路線	空知中央バス(株) (深川)北竜線	16,802	4,931	0	11,871	3,459	0	16,802
		1.00	0.29	0.00	0.71	0.21	0.00	1.00
地域間幹線系	空知中央バス(株) 深川滝川線	77,995	31,211	17,117	10,494	0	19,173	77,995
		1.00	0.40	0.22	0.13	0.00	0.25	1.00
計 (地域間幹線系統・広域生活交通路線)		179,143	74,878	37,641	46,450	4,459	20,174	179,143
		1.00	0.42	0.21	0.26	0.02	0.11	1.00
地域内フィーダー系統	和ハイヤー(有) 乗合タクシー	3,434	349	182	2,903	2,903	0	3,434
		1.00	0.10	0.05	0.85	0.85	0.00	1.00
その他	町営バス 北竜追分線	6,033	274	1,895	3,864	3,421	0	6,033
		1.00	0.05	0.31	0.64	0.57	0.00	1.00
その他	スクールバス 一般利用	13,274	173	19,338	-6,237	-6,237	0	13,274
		1.00	0.01	1.46	-0.47	-0.47	0.00	1.00
計 (地域内フィーダー系統・その他)		16,708	522	19,520	-3,334	-3,334	0	16,708
		1.00	0.03	1.17	-0.20	-0.20	0.00	1.00
合計		195,851	75,400	57,161	43,116	1,125	20,174	195,851
		1.00	0.38	0.29	0.22	0.01	0.10	1.00

令和 5 年度：各バス会社、ハイヤー会社からの提供データ

上段は金額（千円）、下段は経常費用に対する比率

スクールバス国・道補助金は普通交付税額で、基準財政決定額に対する普通交付税決定額の割合により低減した額

⑦タクシー・ハイヤー事業

北竜町内のタクシー・ハイヤー事業は、和ハイヤー(有)が行っています。運行車両は小型2台と運転手2名の小規模な事業所となっています。

⑧北竜町福祉有償運送

北竜町の住民の福祉の向上、または交通空白地域の解消を図り、公共の福祉の増進を図るため、北竜町による福祉有償運送を行っています。

令和5年度は、町内の在住の15名を対象に深川市と滝川市の病院への通院で、計100人の輸送を行っています。

⑨サンフラワーパーク北竜温泉送迎バス（無料）

(株)北竜町振興公社では、夜の時間帯においてサンフラワーパーク北竜温泉の無料送迎を行っています。

運行概要は以下のとおりとなっていますが、令和4年度から現スクールバスの運転手を加えるかたちで、無料送迎及びスクールバス運行業務を行っています。

表 無料送迎バスの概要

運行曜日：毎週日曜日～木曜日（金曜日と土曜日は運休）
運行回数：1日1往復
運行方面：和方面、碧水方面
運行時間：行き19時台、帰り20時～21時台
運転手：3名

資料：(株)北竜町振興公社

2-2. 上位関連計画等による公共交通の位置づけ

(1) 北竜町総合計画

2019年度から2028年度における10か年の北竜町のテーマを

「あかるい農法 ひまわりの北竜町」

と掲げ、6つの基本目標を定めている。

地域公共交通に関係する基本目標は「安心して生活できる晴れやかなまち」としており、町民生活の基本となる生活インフラを持続的・安定的に提供できるまちづくりを進めるとともに、防災・防犯等の安全面における生活機能の向上を図り、町民がいつまでも安心して安全に暮らせるまちづくりを進めるとしています。

地域公共交通についての現状と課題は以下の2点が挙げられています。

- ・広域公共交通については、町民の交通手段の一つであるバス路線の確保のため、バス事業者に対し支援を行っているが、便数が減少している状況にあり、今後も現行路線の維持・確保が求められている。
- ・本町では、地域公共交通として住民混乗のスクールバスを運行しているほか、乗合タクシーの運行も行っている。乗合タクシーの利用者は年々増加傾向にあるが、連絡施設の追加要望があることから今後の対応が課題となっている。

現状と課題に対して次のとおり基本方針を設定しています。

- ・町民の交通手段の一つであるバス路線の確保のため、バス事業者への支援を継続する。
- ・交通弱者への支援として、地域公共交通の充実に努める。

基本方針を実現するために以下の主要施策を設定しています。

○広域バス路線の維持

- ・町民の生活交通を確保するため、関係機関やバス事業者と連携し運行に努める。
- ・広報誌やホームページを活用し、地球温暖化の防止や交通事故の減少をはじめとするバス利用のメリットについてのPRや、町ぐるみで地域の生活交通を守り育てていく意識の啓発を行い、バスの利用促進に努める。

○地域公共交通対策

- ・今後も交通弱者対策として地域公共交通対策を継続するとともに、乗合タクシーは連絡施設の追加について運行事業者を含めた協議を進める。

地域公共交通の成果目標を以下のとおり設定しています。

- ・地域公共交通登録者数 229人（2018年度末） → 240人（2023年度末）

「地域公共交通」と連携を図るべき事項として、「土地利用計画」、「高齢者福祉」及び「観光」からまちづくりに関する事項を抽出すると以下のとおりとなります。

①土地利用

○基本方針

- ・町の一体的・持続的発展に向け、農業振興地域整備計画等の土地利用関連計画に基づき、計画的な土地利用を推進します。
- ・豊かな自然を活かし、景観に配慮した快適で機能的な市街地整備を積極的に推進します。

○主要施策：土地利用に関する指針の策定と調整

- ・適切な土地利用の推進を図ります。
- ・全町的に整合性のとれた土地利用を推進するため、農業振興地域整備計画等の土地利用関連計画の見直し・総合調整を行います。

②高齢者福祉

○基本方針

- ・高齢者が充実した生活を送ることができるよう、地域活動等の生きがいづくりを推進します。
- ・地域支え合いセンターなどの施設を活用した介護予防や生きがいづくり活動及び社会参加における町民の主体的な活動を支援します。

○主要施策：高齢者の生きがい、社会参加の促進

- ・高齢者が生きがいを持って充実した生活を送れるよう、老人クラブ活動の支援や高齢者事業団の充実支援、生涯学習の場の提供に努めます。
- ・ボランティア団体の協力のもと、碧水地域支え合いセンター及び和地域支え合いセンター等の集いの場を活用した生きがいづくり活動を推進します。

③観光振興

○基本方針

- ・近隣自治体や関係団体との連携により、魅力ある観光資源をネットワーク化した広域観光ルートの設定や通過型観光から滞在型観光へのシフトを推進します。

○主要施策：観光・交流資源の充実

- ・ひまわりの里及び周辺エリアについて、ひまわりの里やサンフラワーパーク北竜温泉等の建物の老朽化対策や施設・設備の適正管理を進めます。
- ・インバウンド観光の受け入れ体制の強化を図るとともに、観光客の増加に対応できる施設・設備の整備に努めます。
- ・町内観光とリンクしたフットパス、キャンプ及び農業体験などの機能の創出を図り、観光・交流拠点としての一層の機能強化と有効活用に努めます。
- ・町民及び関係団体の参画・協働のもと、町最大のイベントであるひまわりまつりの充実に努めます。
- ・町民及び観光関連事業者のホスピタリティ21の向上に向けた啓発活動の推進や学習機会の提供を図るとともに、ボランティアで観光案内等を行う観光ボランティアの育成に努めます。

(2) 北竜町まち・ひと・しごと創生総合戦略

北竜町の人口ビジョンとの関係を整理する中で、北竜町人口ビジョン(将来目標人口)が以下のとおり示されています。

令和2年人口1,798人に対し、令和7年における目標人口は1,650人となっています。

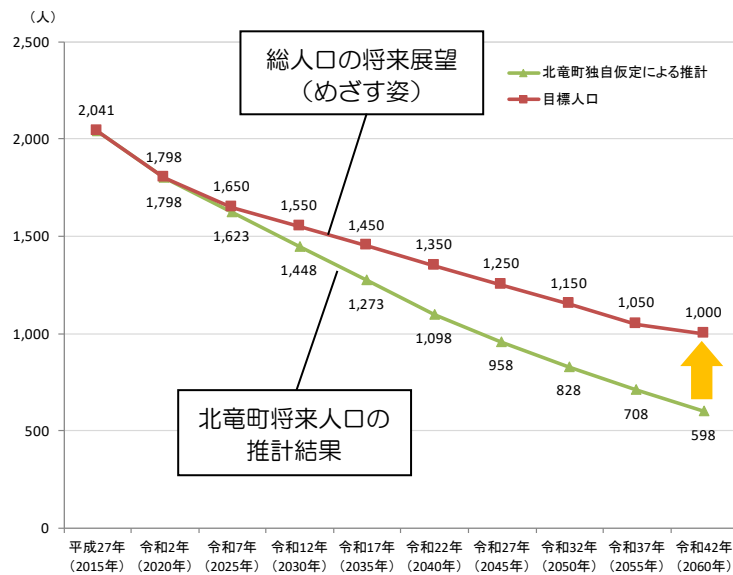


図 北竜町人口ビジョン

総合戦略において地域公共交通に関連する基本目標、基本的方向、事業内容としては以下が示されています。

【地域公共交通】

- 基本目標：ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる。
- 基本的方向：安全で安心な暮らしの推進にあたっては、近隣市町や北海道との連携を図る。
- 事業内容：時代に合った地域の形成を支援するものとして、地域公共交通運行事業を継続する。

その他、まちづくりに関する事項として「市街地形成」、「観光振興」に関わるものとして以下が示されています。

【市街地形成】

- 基本目標：ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる
- 基本的方向：定住政策として住宅環境の整備を図る。
医療・買い物等利便性の高い市街地への居住地の移動を図る。
空家空地対策計画により快適な生活空間の確立を推進する。
冬期間の快適な生活環境を創造する。

【観光振興】

- 基本目標：魅力ある北竜町をつくるとともに、安定した雇用を創出する
- 基本的方向：サンフラワーパーク北竜温泉やひまわりの里の充実を図り、観光における競争力強化による雇用創出に取り組む。
- 事業内容：ひまわりの里整備事業（観光のインターナショナル事業）

第3章 地域公共交通実態調査

3-1. 住民アンケート調査目的・内容

(1) 目的

住民アンケート調査は、主に住民ニーズに合致する町営バス北竜妹背牛線の運行内容を把握することを目的とします。

(2) 調査の概要

アンケート調査は、一般アンケート調査と高校生アンケート調査を実施します。質問の概要は以下のとおりです。

表 アンケート調査の質問の概要

種別	質問の概要
一般アンケート調査 (高校生を除く)	①町営バス北竜妹背牛線の利用状況 ②運行時間帯、バス路線の延伸、乗継ぎ待ち時間によるサービス性、深川市・滝川市への直行便など ③利用目的と利用頻度（現状・改善後） ④具体的な運行ダイヤの利用の有無（方面別、往路・復路別、平日・土曜・日祝別） ⑤個人属性（お住まい・性別・年齢・運転免許の保有状況・自家用車の使用状況） ⑥住民ドライバーの参加の可否 ⑦自由記述
高校生アンケート調査 (学生・保護者が対象)	上記①～④と同様 ⑤個人属性（お住まい・性別・年齢・運転免許の保有状況・自家用車の使用状況） ⑥自由記述

(3) 配付・回収方法

アンケートの配付・回収方法は、以下のとおりです。

表 配付・回収方法

種別	配付方法	回収方法
一般アンケート調査	日本郵便(株)の配達地域指定郵便(タウンメール)による町内全世帯に配付	郵送による回収 QRコードから回答
高校生アンケート調査	日本郵便(株)の普通郵便による高校生が居住する町内全世帯に配付	

(4) 配付・回収のスケジュール

アンケートの配付・回収スケジュールは、以下のとおりです。

表 配付・回収スケジュール

種別	配付日	回収期日
一般アンケート調査	令和6年7月9日(火)	令和6年7月31日(水)
高校生アンケート調査		

(5) 配付・回収数

各アンケートの配付・回収の状況は、以下のとおりです。

表 配付・回収数

種別	配付数	回収数(回収率)
一般アンケート調査	735世帯	186世帯(25.3%)
高校生アンケート調査	高校生 28世帯(31人)	19世帯(67.9%)

(6) 調査結果の概要

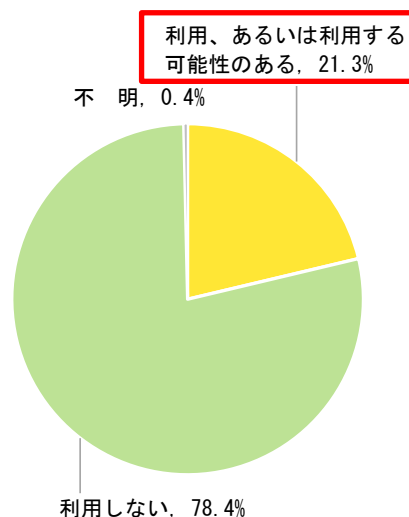
①町営バス北竜妹背牛線の利用状況（利用の有無）

一般の方の町営バス北竜妹背牛線の利用状況は、「利用している、利用する可能性がある」が21.3%となっています。

高校生及び保護者の方は、「利用している、利用する可能性がある」が48.7%となっています。

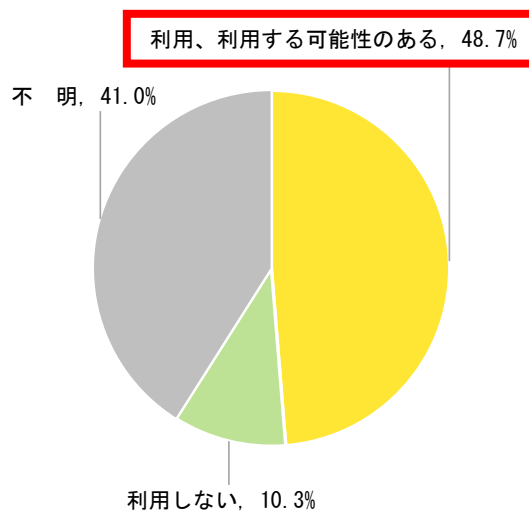
図表 町営バス北竜妹背牛線利用状況（一般）

選択肢	回答数
利用、あるいは利用する可能性がある	60
利用しない	221
不明	1
合計	282



図表 町営バス北竜妹背牛線利用状況
（高校生及び保護者）

選択肢	回答数
利用、あるいは利用する可能性がある	19
利用しない	4
不明	16
合計	39



②町営バス北竜妹背牛線の利用意向

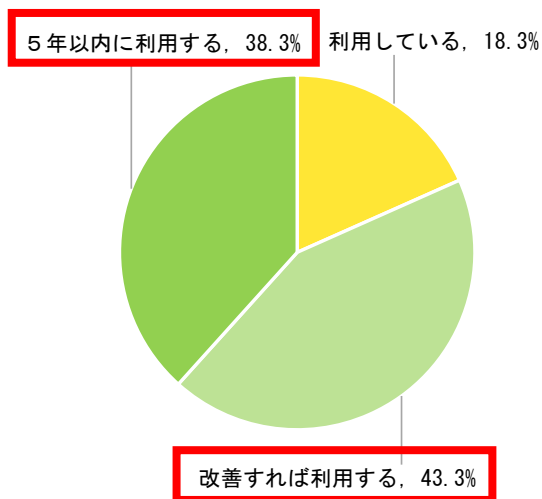
①の利用状況で「利用する等」を回答した方の利用意向は以下のとおりです。

「改善すれば利用する」が43.3%で最も多く、次いで「5年以内に利用する」が38.3%となっています。

高校生及び保護者の方は「5年以内に利用する」が36.8%と最も多く、次いで「改善すれば利用する」が31.6%となっています。

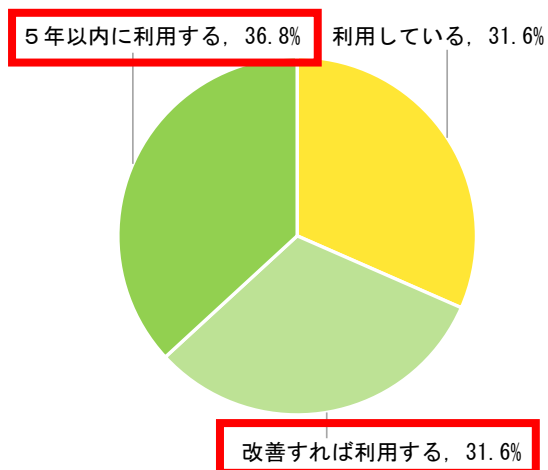
図表 町営バス北竜妹背牛線の利用意向（一般）

選択肢	回答数
利用している	11
改善すれば利用する	26
5年以内に利用する	23
合計	60



図表 町営バス北竜妹背牛線の利用意向（高校生）

選択肢	回答数
利用している	6
改善すれば利用する	3
5年以内に利用する	6
合計	15



③ 「利用している」及び「5年以内に利用」する方の改善要望

②の町営バス北竜妹背牛線の利用意向で「利用している」及び「5年以内に利用する」と回答した方について、「①改善しないと利用できない」と「②改善してほしい」の合計が多い改善要望は、以下のとおりです。

一般の方は「運行時間帯の改善」が85.3%と最も多く、次いで「乗り継ぎ時間短縮」と「深川・滝川直行」が55.9%の順となっています。

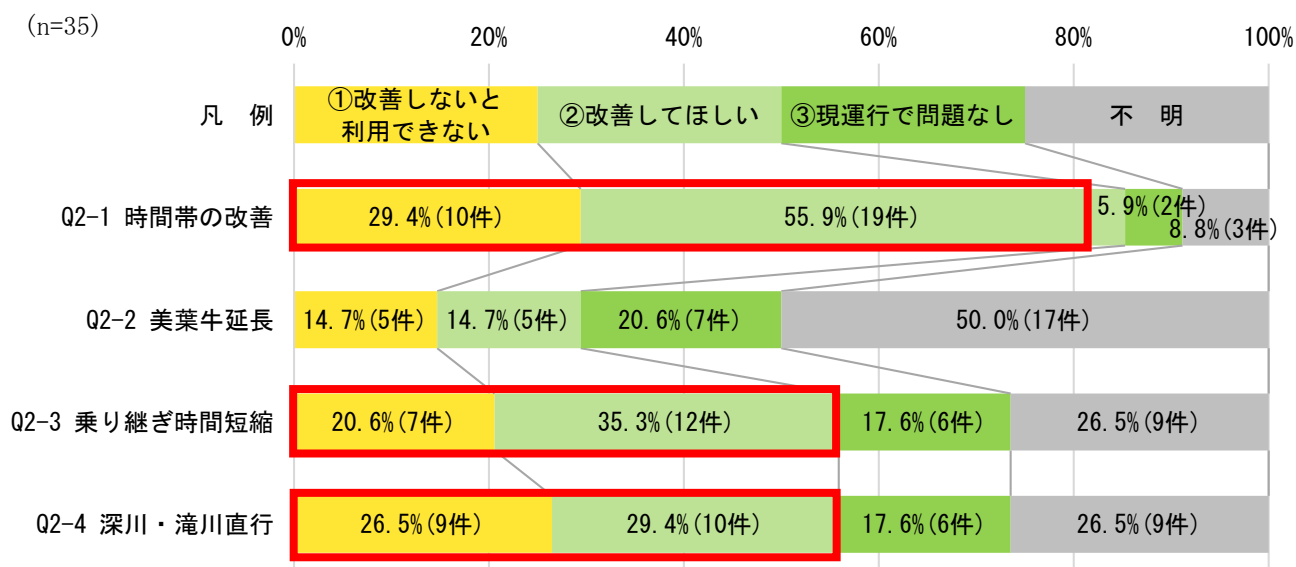


図 町営バス北竜妹背牛線の改善要望（一般）

高校生及び保護者の方は「運行時間帯の改善」と「深川・滝川直行」が69.3%と最も多く、次いで「乗り継ぎ時間短縮」が69.2%の順となっています。

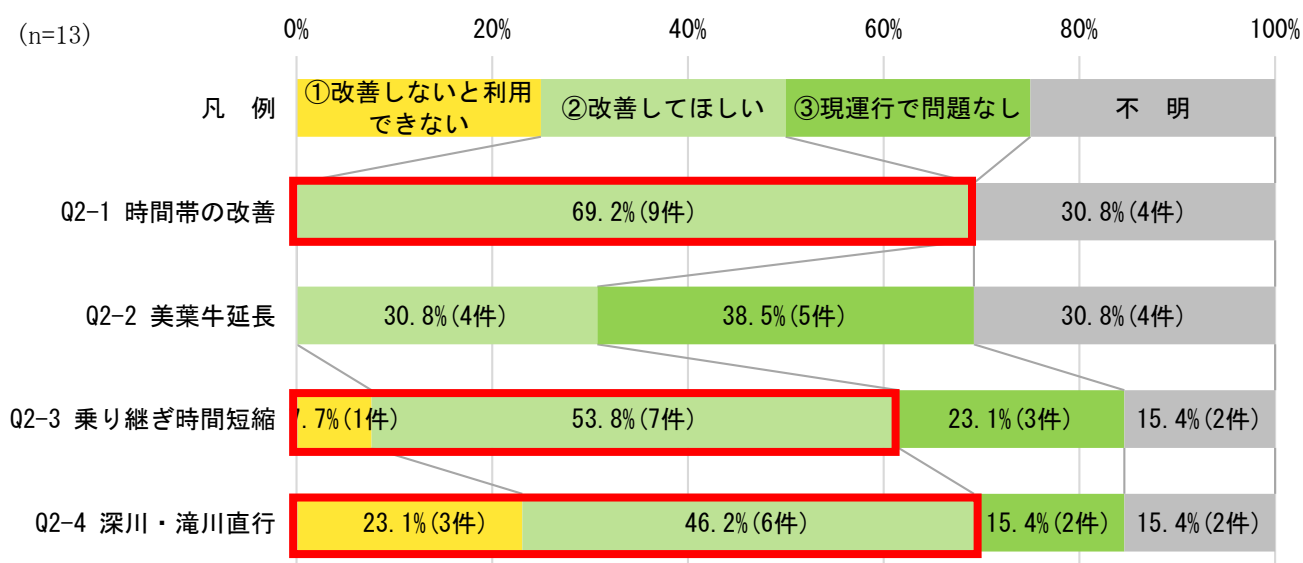


図 町営バス北竜妹背牛線の改善要望（高校生）

④ 「改善されれば利用」する方の改善要望

②の町営バス北竜妹背牛線の利用意向で「改善されれば利用」と回答した方について、「①利用する」と「②利用すると思う」の合計が多い改善要望は、以下のとおりです。

一般の方は「運行時間帯の改善」と「深川・滝川直行」が 85.3%と最も多く、次いで「乗り継ぎ時間短縮」が 80.8%の順となっています。

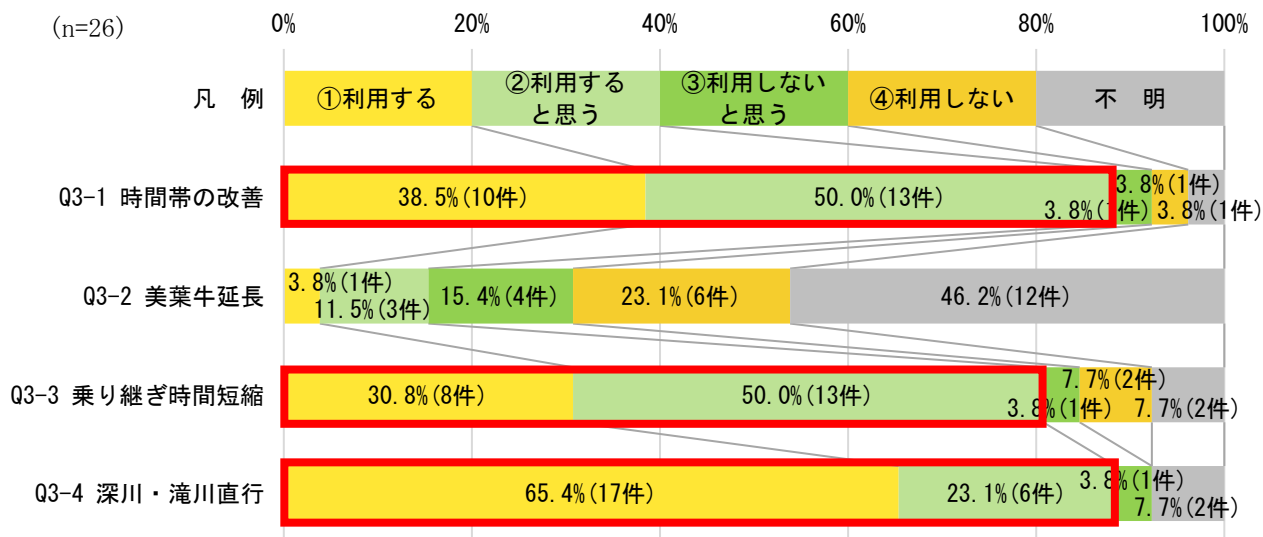


図 町営バス北竜妹背牛線の改善要望（「改善されれば利用」一般）

高校生及び保護者の方は「時間帯の改善」と「深川・滝川直行」が 100%と最も多く、次いで「美葉牛への延長」が 66.6%の順となっています。

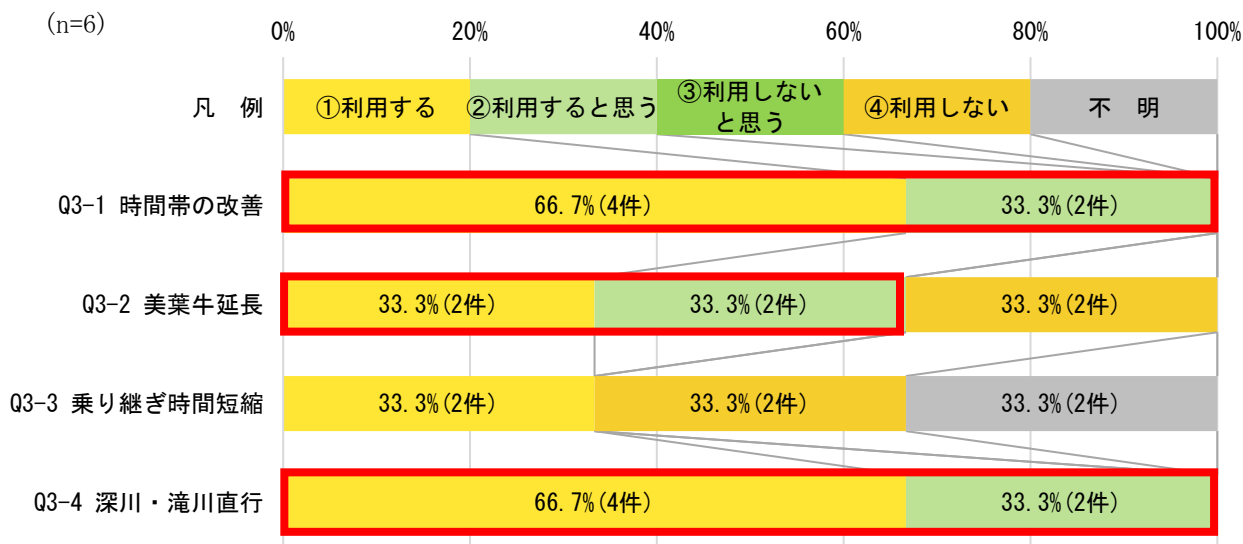


図 町営バス北竜妹背牛線の改善要望（「改善されれば利用」高校生）

⑤ 直行便の運行希望時間帯（深川方面）

「行き」は「平日」の7時台が最も多く、次いで8時台で、9時台及び6時台となっています。

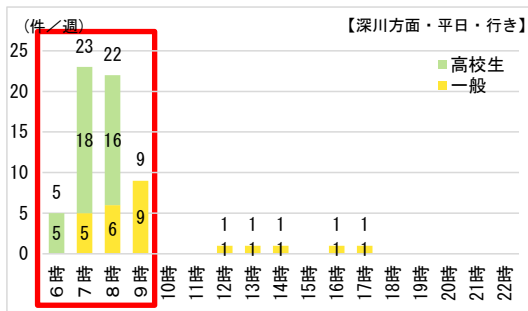


図 直行便の運行希望時間帯
(深川方面・平日・行き)

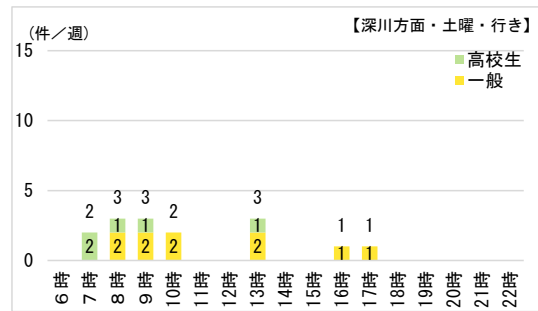


図 直行便の運行希望時間帯
(深川方面・土曜・行き)

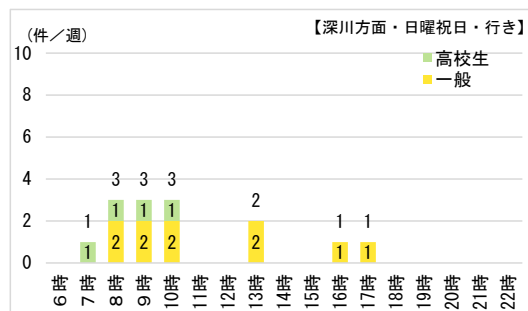


図 直行便の運行希望時間帯（深川方面・日曜日・行き）

「帰り」は「平日」の16時台が最も多く、次いで19時台で、17時台と18時台、21時台の順となっています。

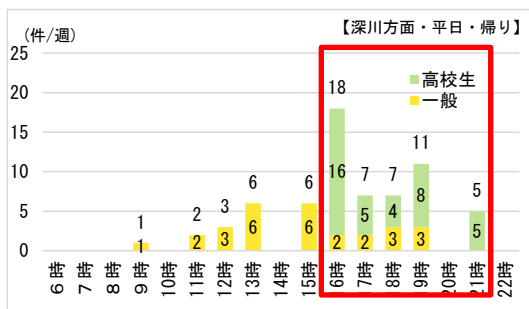


図 直行便の運行希望時間帯
(深川方面・平日・帰り)

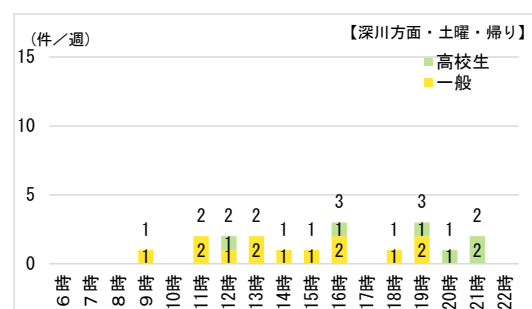


図 直行便の運行希望時間帯
(深川方面・土曜・帰り)

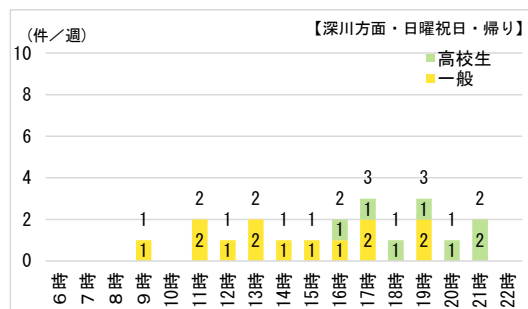


図 直行便の運行希望時間帯（深川方面・日曜日・帰り）

⑥直行便の運行希望時間帯（滝川方面）

「行き」は「平日」の7時台と8時台が最も多く、次いで6時台、9時台の順となっています。

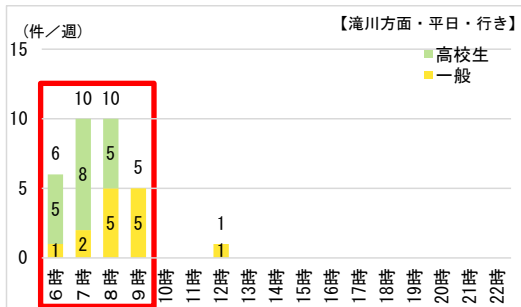


図 直行便の運行希望時間帯
（滝川方面・平日・行き）

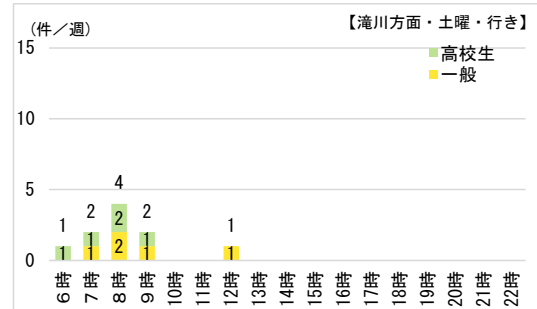


図 直行便の運行希望時間帯
（滝川方面・土曜・行き）

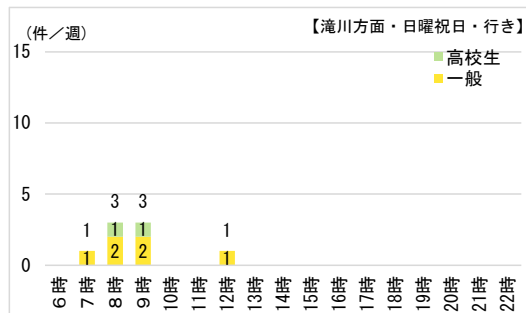


図 直行便の運行希望時間帯
（滝川方面・日曜日・行き）

「帰り」は「平日」の16時台が最も多く、次いで18時台で、15時台、17時台及び21時台となっています。

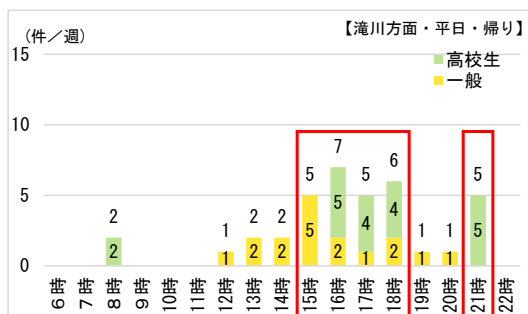


図 直行便の運行希望時間帯
（滝川方面・平日・帰り）

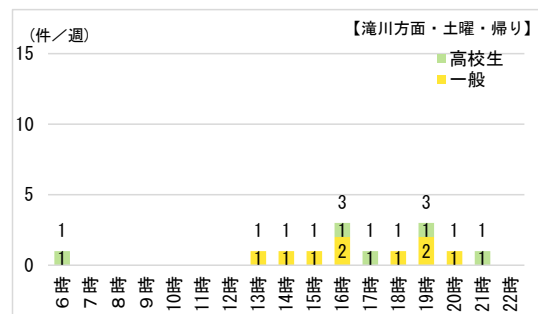


図 直行便の運行希望時間帯
（滝川方面・土曜・帰り）

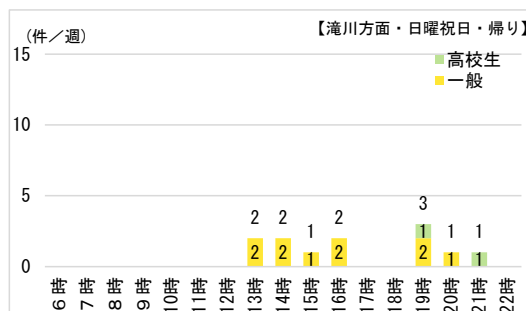


図 直行便の運行希望時間帯（滝川方面・日曜日・帰り）

⑦ JR・深川滝川線の乗継ぎによる運行希望便（深川方面）

（A：JR乗継ぎ、B：深川滝川線乗継ぎ）

【平日／行き】

「B②7:32～7:56→8:01～8:17」が13人と最も多く、「A②6:51～7:15→7:21～7:26」が12人、「B①6:47～7:11→7:16～7:32」が8人の順となっています。

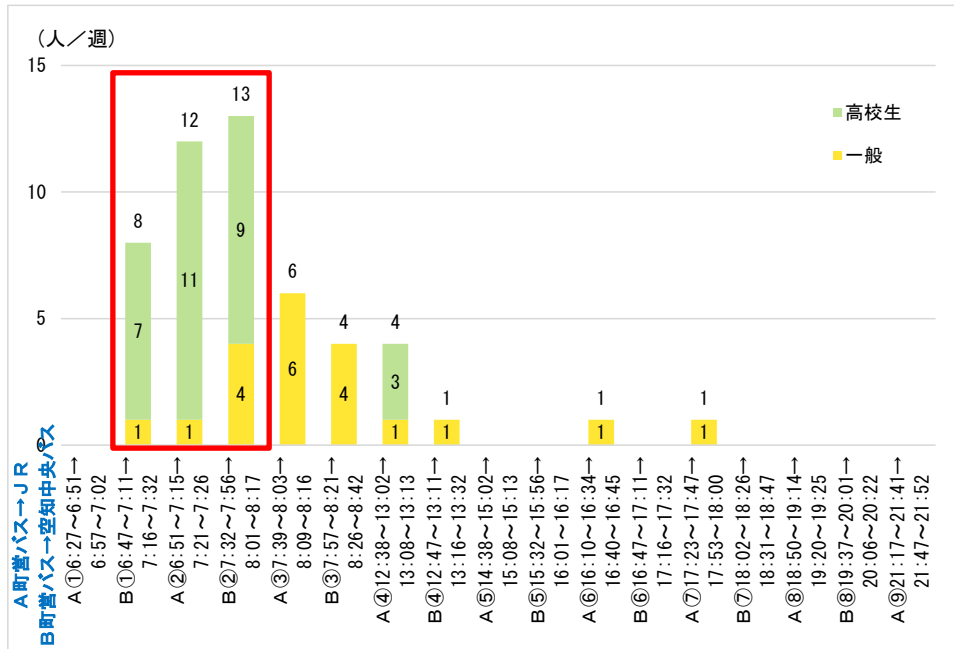


図 JR・深川滝川線の乗継ぎによる運行希望便（深川方面・平日・行き）

【平日／帰り】

「B⑥16:00～16:14→16:19～16:43」と「B⑨19:10～19:24→19:29～19:53」が8人と最も多く、次いで「B⑤12:00～12:14→12:19～12:43」及び「A⑥16:36～16:41→16:47～17:12」が5人の順となっています。

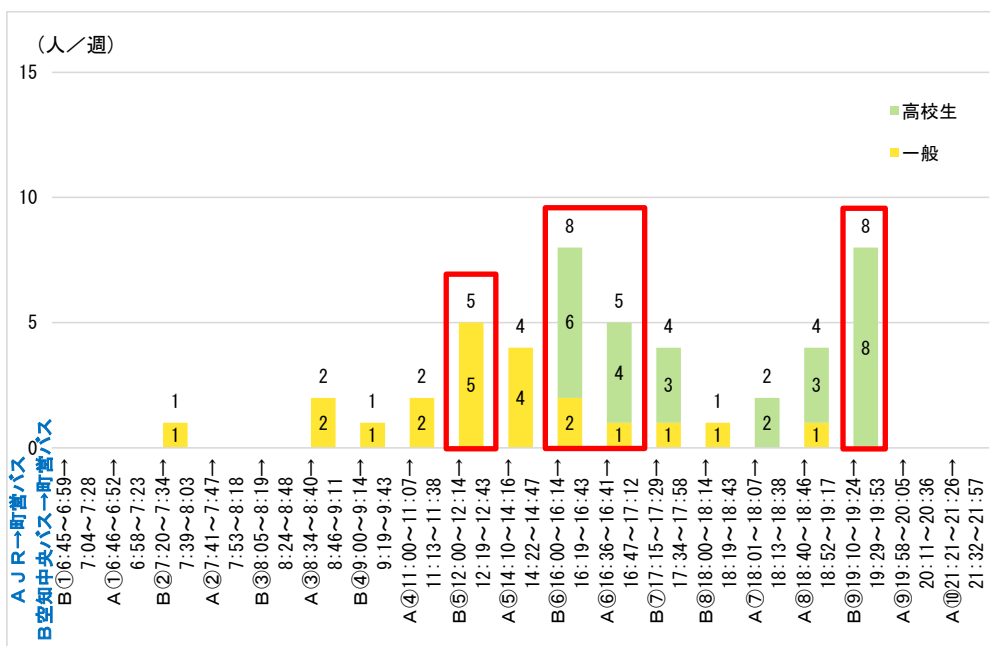


図 JR・深川滝川線の乗継ぎによる運行希望便（深川方面・平日・帰り）

【土曜／行き】

「B②7:57～8:21→8:26～8:42」が4人と最も多く、その他1人の利用となっています。

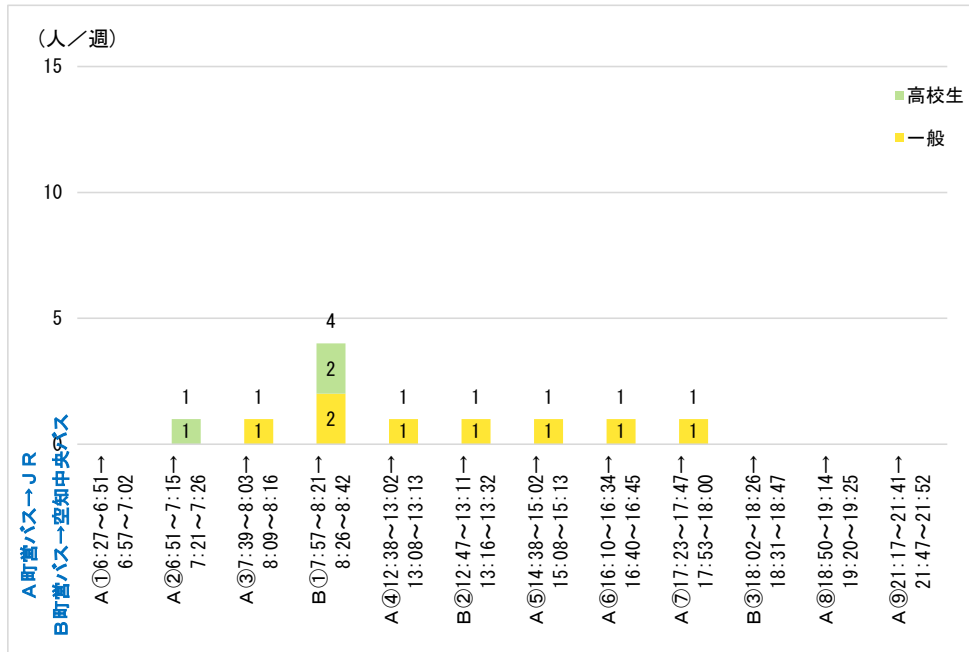


図 J R・深川滝川線の乗継ぎによる運行希望便（深川方面・土曜・行き）

【土曜／帰り】

「B②13:10～13:24→13:29～13:53」が5人と最も多く、他1人から2人の利用となっています。

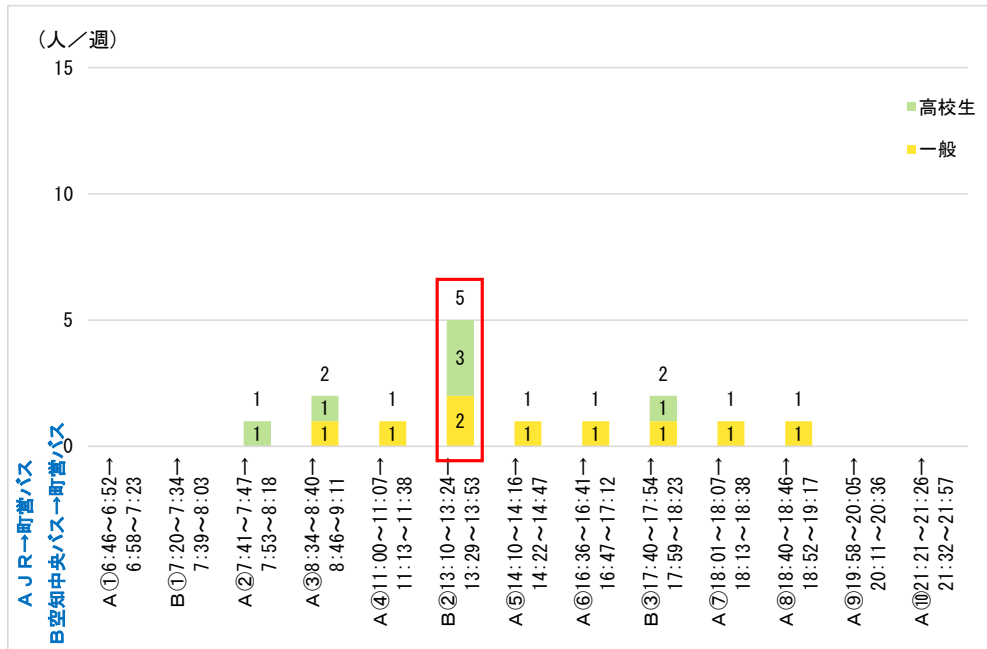


図 J R・深川滝川線の乗継ぎによる運行希望便（深川方面・土曜・帰り）

【日曜祝日／行き】

1人から2人の利用となっています。

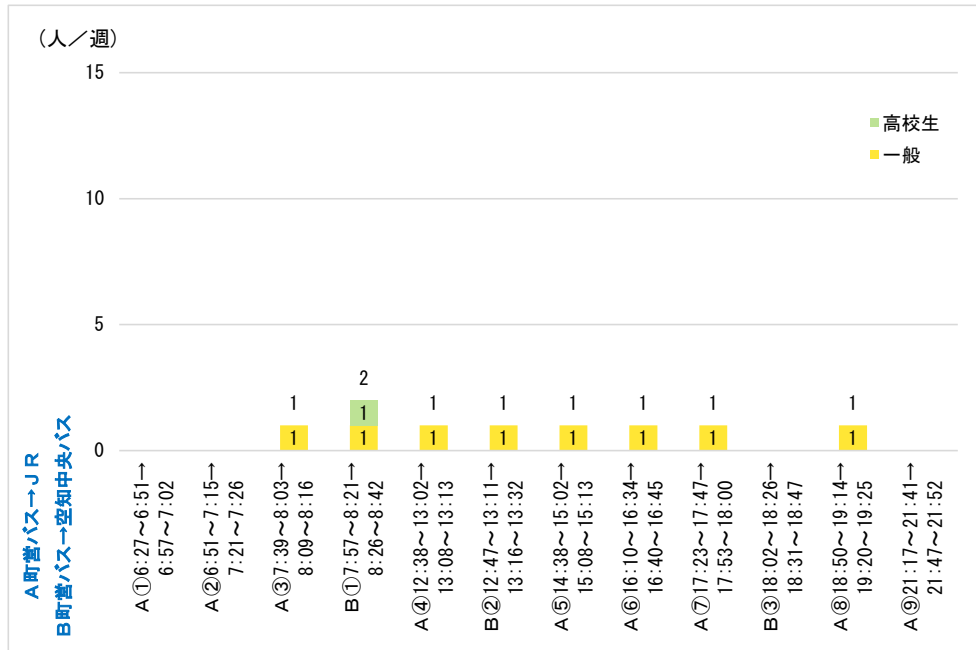


図 JR・深川滝川線の乗継ぎによる運行希望便（深川方面・日曜祝日・行き）

【日曜祝日／帰り】

「B②13:10~13:24→13:29~13:53」が3人が最も多く、他1人から2人の利用となっています。

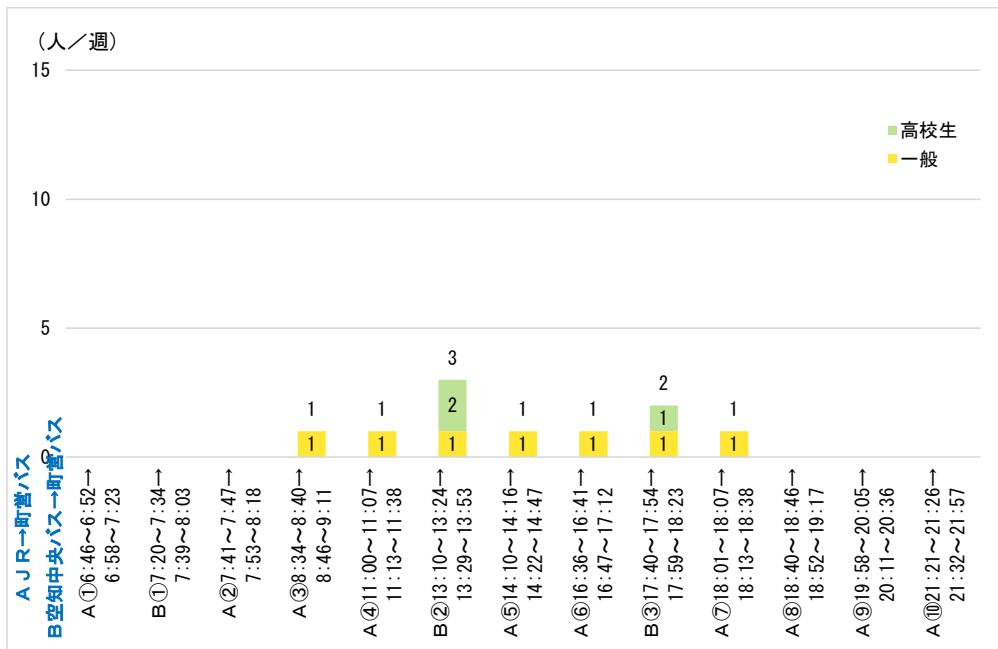


図 JR・深川滝川線の乗継ぎによる運行希望便（深川方面・日曜祝日・帰り）

⑧ JR・深川滝川線の乗継ぎによる運行希望便（滝川方面）

（C：JR乗継ぎ、D：深川滝川線乗継ぎ）

【平日／行き】

「C②7:17～7:41→7:47～7:58」が14人と最も多く、次いで「C①6:22～6:46→6:52～7:03」及び「D①6:30～6:54→6:59～7:46」が9人の順となっています。

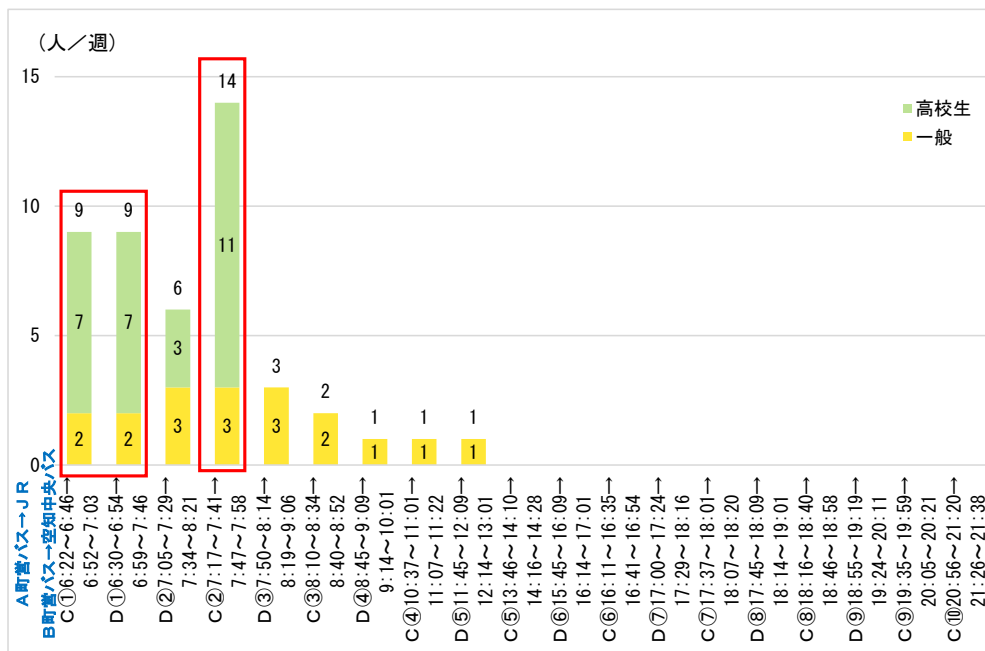


図 JR・深川滝川線の乗継ぎによる運行希望便（滝川方面・平日・行き）

【平日／帰り】

「C⑦19:08～19:20→19:26～19:51」が11人と最も多く、次いで「D⑦17:45～18:31→18:36～19:00」が6人、「C⑥17:41～17:53→17:59～18:24」が5人となっています。」

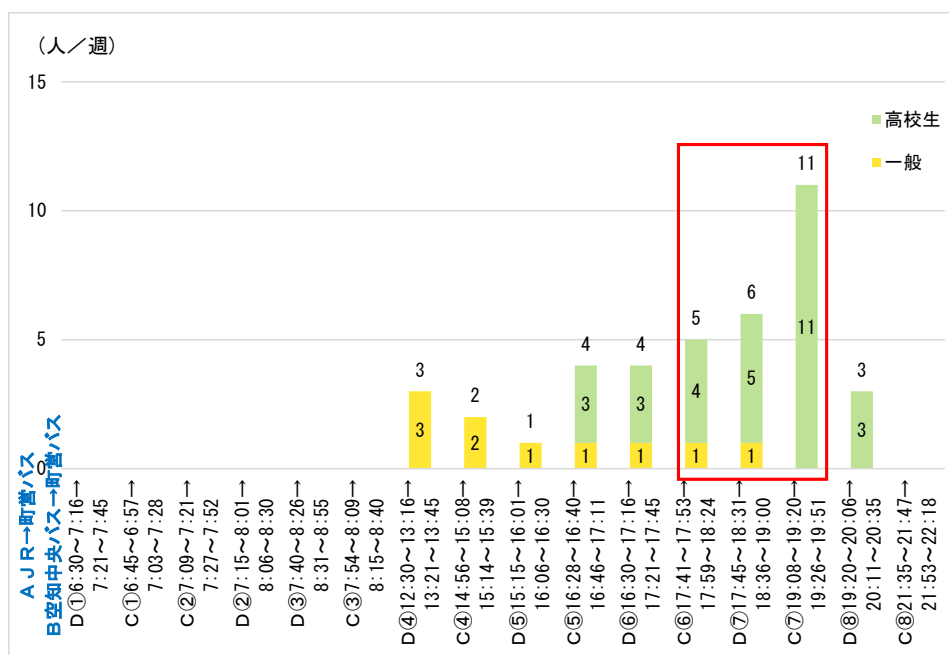


図 JR・深川滝川線の乗継ぎによる運行希望便（滝川方面・平日・帰り）

【土曜／行き】

「C②7:17～7:41→7:47～7:58」が3人と最も多く、他1人から2人となっています。

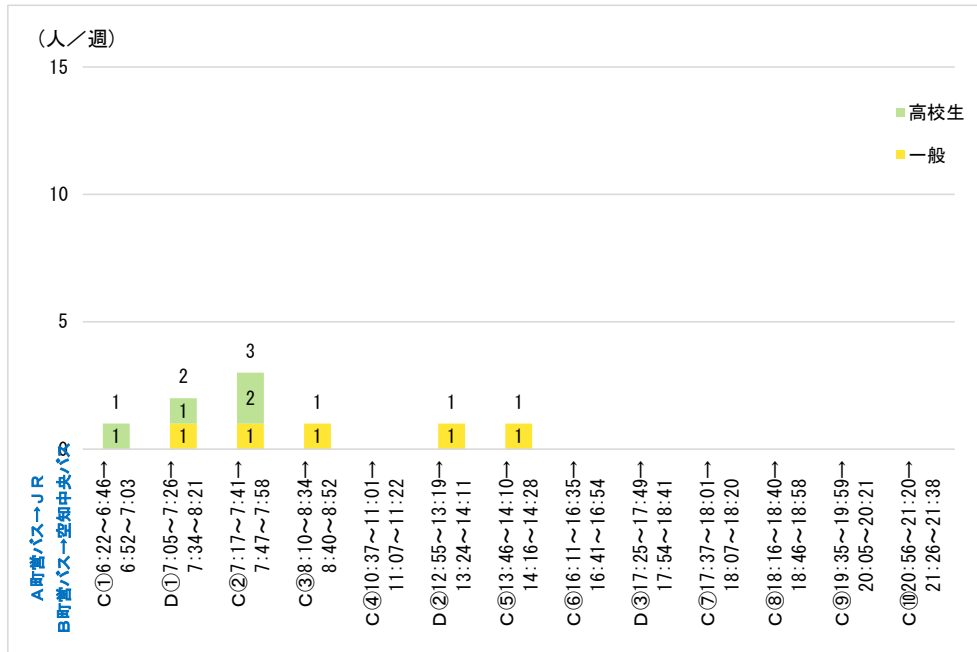


図 JR・梁川滝川線の乗継ぎによる運行希望便（滝川方面・土曜・行き）

【土曜／帰り】

1人から2人のとなっています。

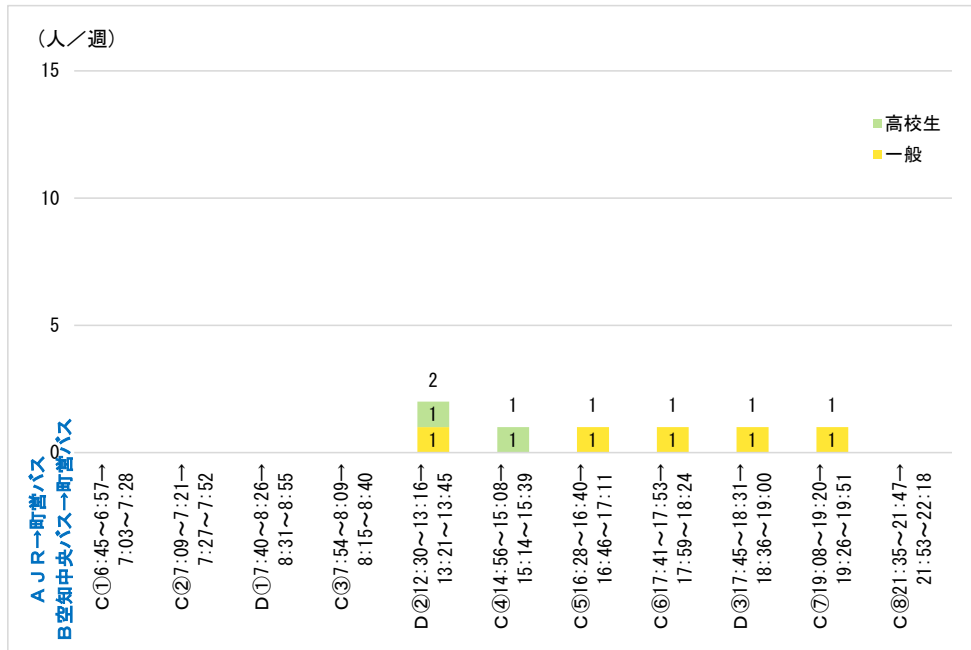


図 JR・梁川滝川線の乗継ぎによる運行希望便（滝川方面・土曜・帰り）

【日曜祝日／行き】

「C②7:17～7:41→7:47～7:58」が3人と最も多く、他1人から2人となっています。

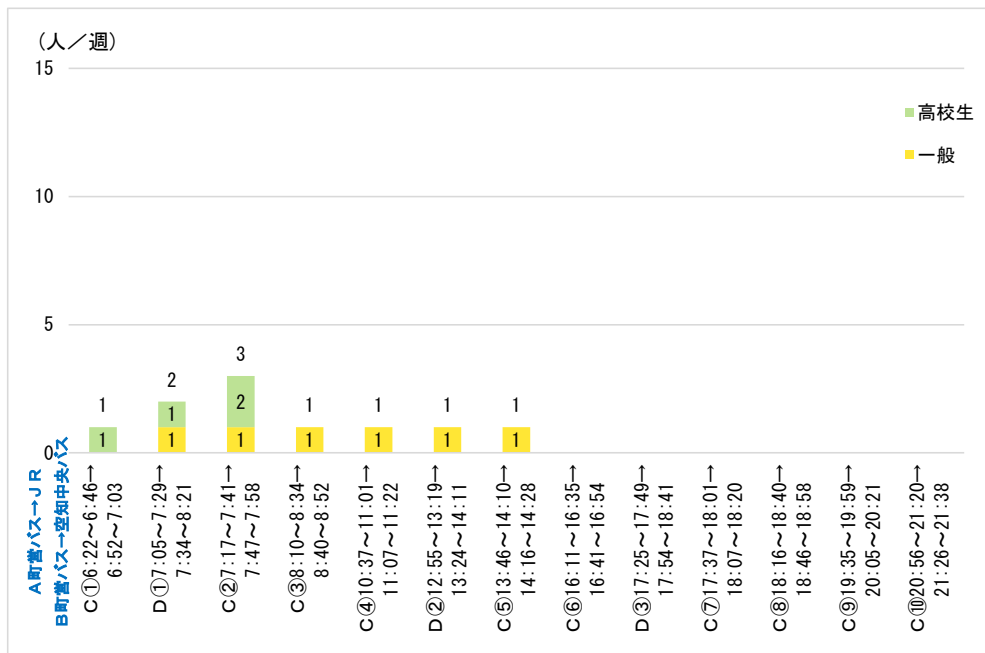


図 JR・深川滝川線の乗継ぎによる運行希望便（滝川方面・日曜祝日・行き）

【日曜祝日／帰り】

1人から2人の利用となっています。

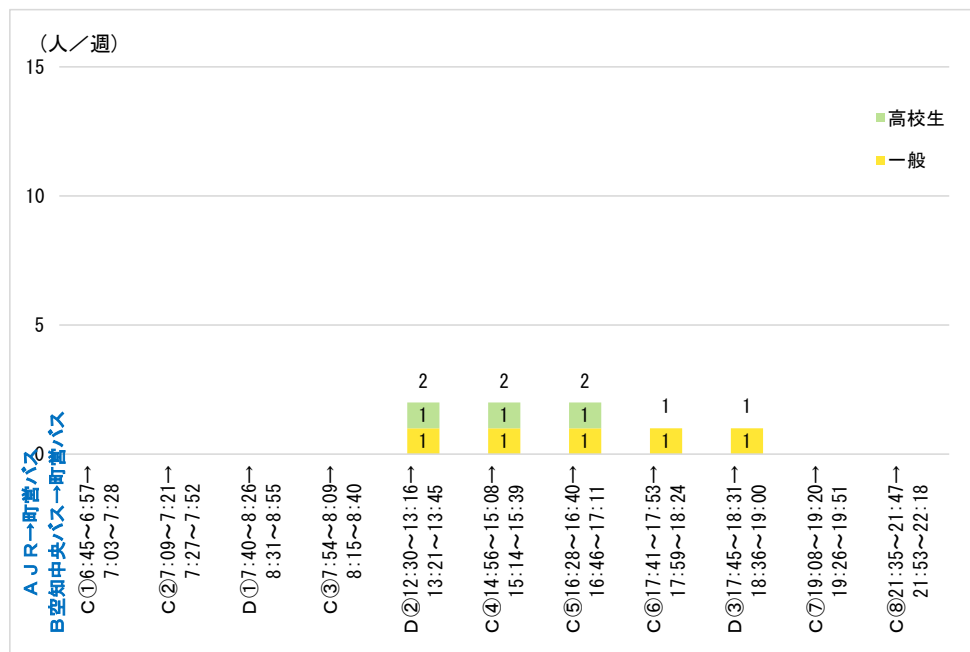


図 JR・深川滝川線の乗継ぎによる運行希望便（滝川方面・日曜祝日・帰り）

⑨町内等の運行希望時間帯（北竜町内・妹背牛町方面）

【行き】

「平日」の「7時台」が21人と最も多く、次いで「平日」の「6時台」と「土曜」の「7時台」が4人となっているほか、1人から3人の利用となっています。

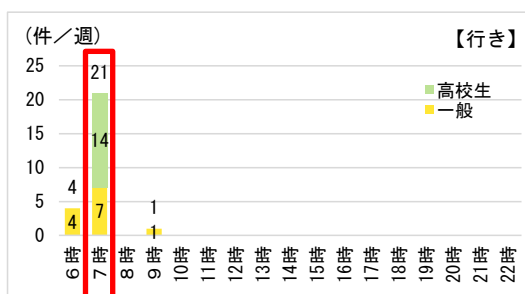


図 運行希望時間帯

(北竜町内・妹背牛町方面・平日・行き)

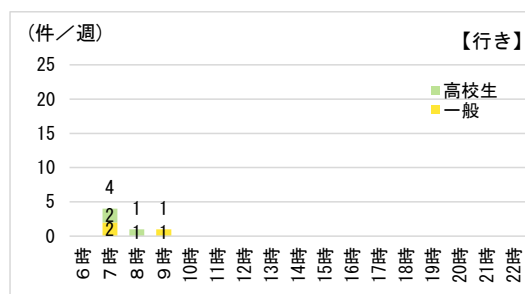


図 運行希望時間帯

(北竜町内・妹背牛町方面・土曜・行き)

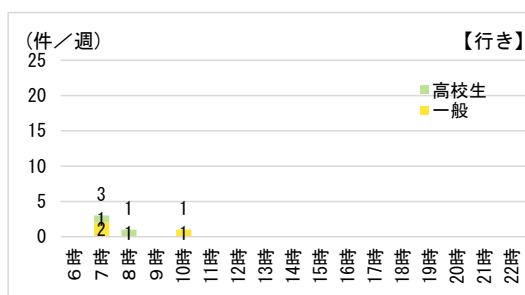


図 運行希望時間帯

(北竜町内・妹背牛町方面・日曜祝日・行き)

【帰り】

「平日」の「19時台」が10人と最も多く、次いで「平日」の「16時台」が5人、「15時台」と「18時台」が4人となっているほか、1人の利用となっています。

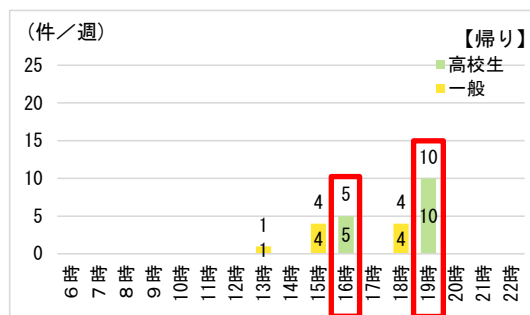


図 運行希望時間帯

(北竜町内・妹背牛町方面・平日・帰り)

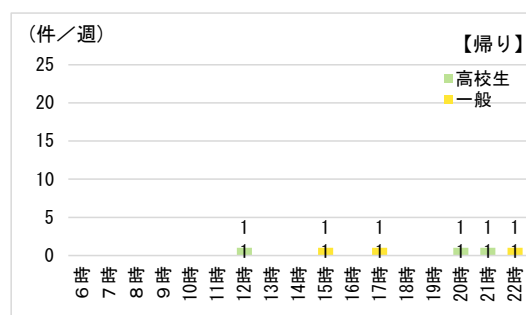


図 運行希望時間帯

(北竜町内・妹背牛町方面・土曜・帰り)

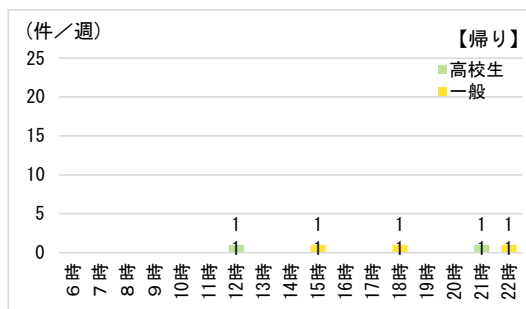


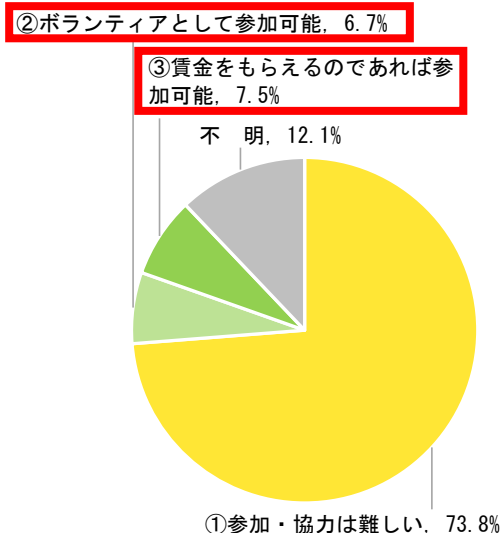
図 運行希望時間帯（北竜町内・妹背牛町方面・日曜祝日・帰り）

⑩住民ドライバーによる運行支援

住民ドライバーによる運行の支援には、「③賃金をもらえるのであれば参加可能」が 7.5%にあたる 18 人、次いで「②ボランティアとして参加可能」が 6.7%にあたる 16 人で、合計すると 34 人が参加可能となっています。

図表 ボランティアドライバーへの参加

項目	回答数
①参加・協力は難しい	177
②ボランティアとして参加可能	16
③賃金をもらえるのであれば参加可能	18
不明	29
合計	240



69 歳以下に限定し「②ボランティアとして参加可能」及び「③賃金をもらえるのであれば参加可能」を合計すると 23 人がドライバーとして協力可能と回答しています。

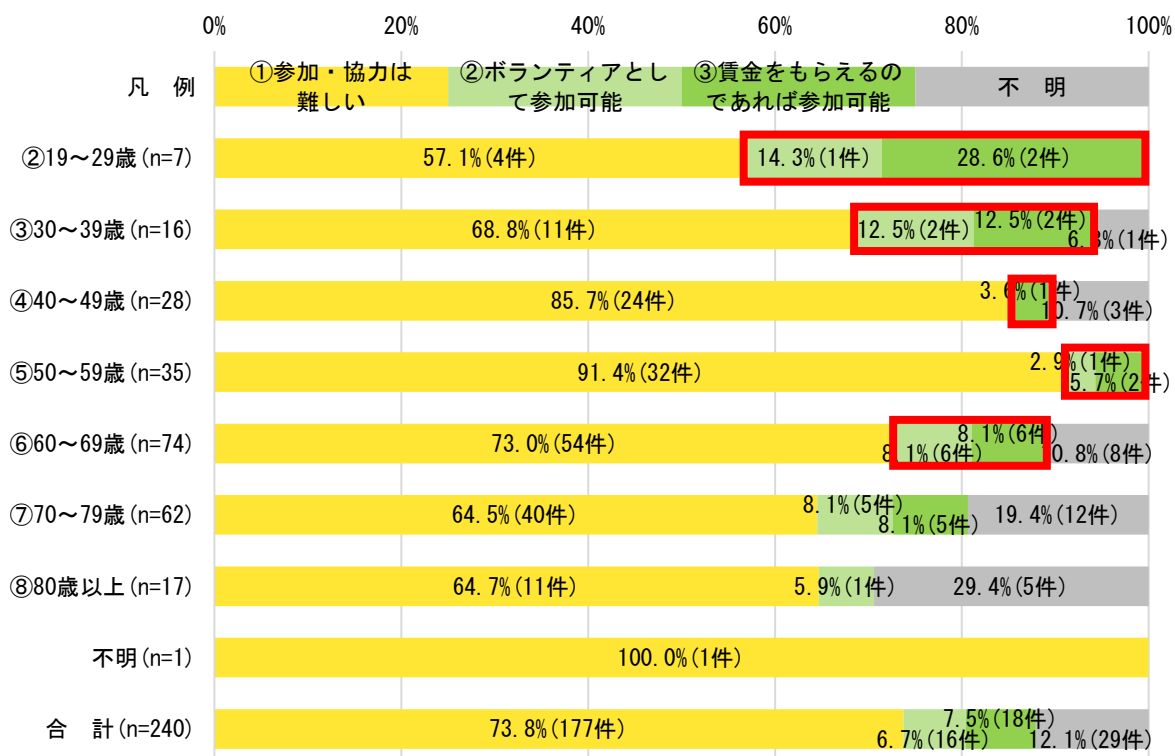


図 ボランティアドライバーへの参加（年齢別）

3-2. バス乗降調査

バス乗降調査は、空知中央バス(株)様による輸送データの提供により、次のとおり集計・分析を行いました。

(1) (深川) 北竜線

乗降調査は、令和4年度において平日が10日間、土日が8日間で実施しており、平日、土日それぞれにおいて北竜温泉～(妹背牛)桜町間の1日当り便ごとの平均乗車人数を集計しました。

①平日

- ・往路は、深川西高校への通学利用として第1便が12.9人となっているものの、他の便は1.6人以下
- ・復路は主に深川西高校からの通学利用として、第3便が6.3人、第5便が5.3人

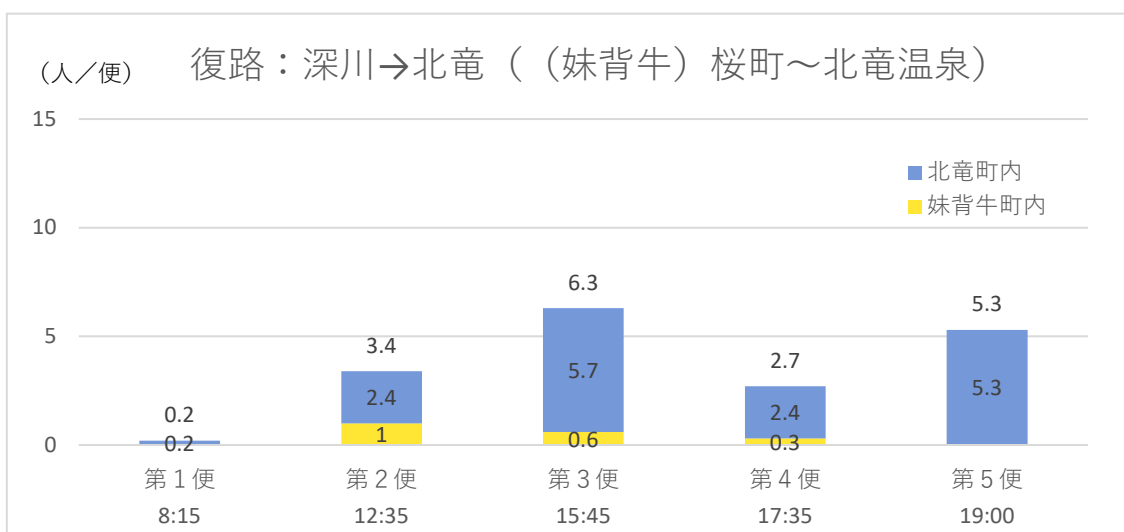
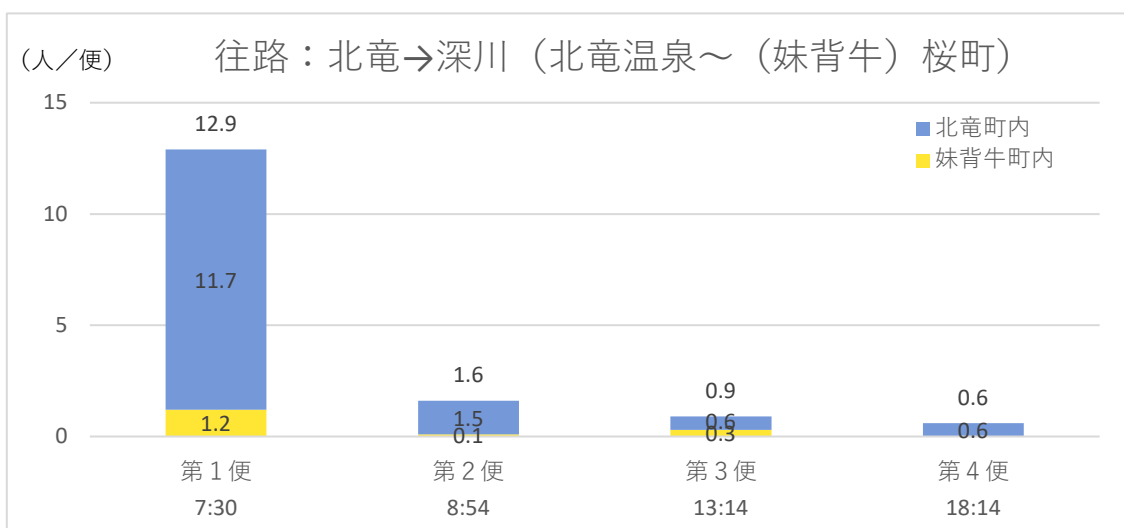


図 令和4年度における平日10日間の平均乗車人数

資料：空知中央バス(株)

②土曜・日曜

- ・往路は、主に土曜の深川西高校の通学により第1便が4.8人となっているものの、他の便は1人以下
- ・復路は、1～3人が利用

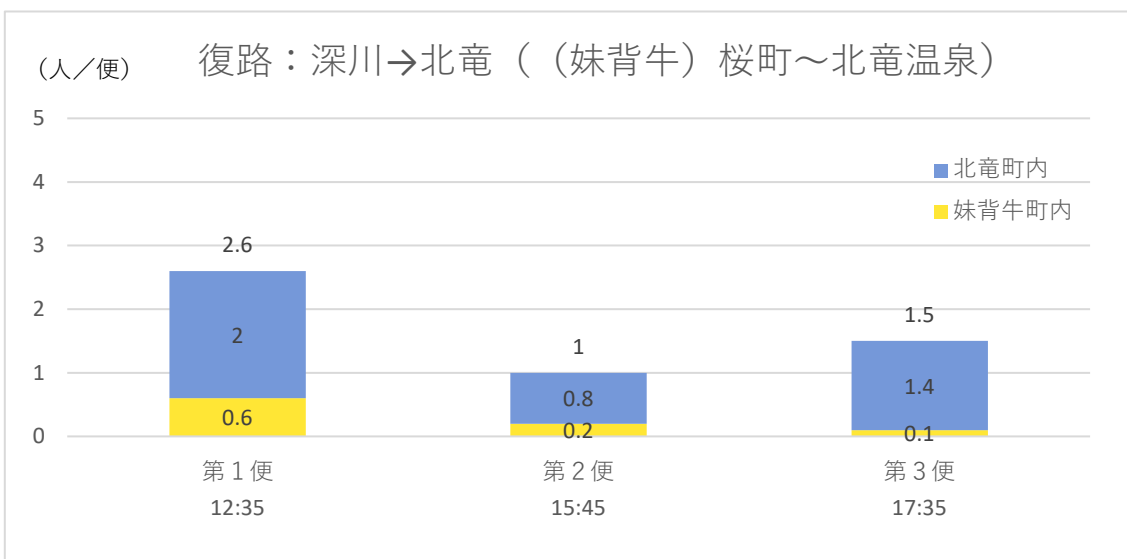
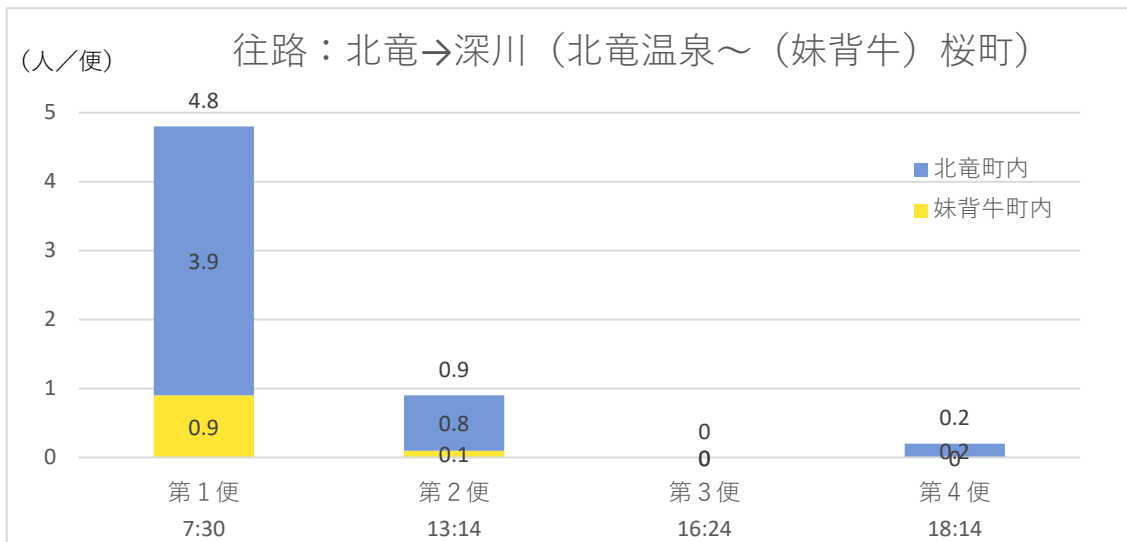


図 令和4年度における土日8日間の平均乗車人数

資料：空知中央バス（株）

第4章 地域公共交通の課題整理

4-1. 主要な課題の整理

「第2章 既往資料による地域及び公共交通の概要」と「第3章 地域公共交通実態調査」から、主要な課題を以下のとおり整理します。

(1) 時間帯により異なる輸送人数に対応する輸送形態の採用

北竜町内の交通資源はハイヤー事業者、北竜町振興公社及び北竜町シルバー人材センターに車両と運転手が配置されています。また、高校生の登下校は、登校が6時台から8時台、下校は16時台から20時台に集中する一方、一般の利用は7時台から18時台に分散する傾向となっています。

このため、町内の交通資源（車両・運転手）を活用するため、利用がまとまっている高校生の登下校利用と、利用が分散化する一般利用で、輸送人数に対応する輸送形態の採用が必要です。

(2) 深川・滝川方面への将来的な直行便の運行検討

町営バス北竜妹背牛線を既に利用している方等は「高校生及び保護者」、改善されれば利用する方は「一般」と「高校生及び保護者」において「深川・滝川直行便」を改善要望とする意見が最も多い状況です。

このように、利用者の改善要望として深川・滝川方面への直行便を望む声が上がっており、利便性を向上させるべく将来的な直行便による運行の検討が必要です。

(3) 利用人数の大小、様々な運行時間帯及び行先に対応できる輸送体制の確立

町営バス北竜妹背牛線が改善された場合、行先は「一般」が「深川方面」が最も多いものの、「高校生」は「深川方面」、「滝川方面」及び「北竜町内・妹背牛町」の3方面に分散する傾向となっています。また、運行時間帯は朝夕の時間帯において高校生の登下校の利用が多いものの、日中の時間帯においても少数ながら「一般の方」の利用要望が見受けられます。

これらのことから、高校の登下校や部活動、一般の通院や希望時間帯に対応するためにも、対応可能な運転手と車両を大幅に増やす輸送体制の確立が必要です。

(4) 様々な輸送業務を補い合う運行管理体制の確立

北竜町内の交通資源は、和ハイヤーがハイヤー事業と町内の乗合タクシー事業を運営しながら町営バス北竜妹背牛線の運行を受託するとともに、北竜町振興公社は温泉無料送迎事業を運営しながら町営のスクールバス及び一般混乗有償運行を受託しています。また北竜町シルバー人材センターは北竜町社会福祉協議会の福祉有償運送業の一部、並びに特別養護老人ホームにおいてデイサービス利用者の輸送等に従事していますが、これらの組織の連携が図られていない状況となっています。

このため、現在、運行を管理する組織がないため、運転手の管理や運行を一括管理する運行管理体制の確立が必要になってきます。

(5) 普通免許においても安全で安心な輸送が可能な運行支援システムの導入

北竜町民の公共交通ニーズは、北竜町内だけではなく妹背牛町、滝川市及び深川市などの様々な運行方面に加え、朝夕の高校生の登下校や日中の通院や買い物目的などの生活交通に対応していく必要があります。これらの様々な需要に対して北竜町の近隣地域の道路事情を熟知した２種免許保有者だけではなく、新たなに普通免許保有者を加えた運行体制を構築せざるを得ない状況となっています。

このような、問題に対応するためには「AI 運行システム」などによる効果的・効率的に対応可能な情報処理システムの構築・運用が必要になります。

4-2. 計画策定の方向性

(1) 自家用車を用いた住民ドライバーによる自宅前送迎の検討

現在の乗合タクシーは町内において「美葉牛・碧水方面」と「竜西・和方面」の2方面の運行が必要であるものの、運転手が1名で運行しているため交互に輸送せざるを得なく、なおかつ町営バスの運行に従事しているため利用ニーズへの対応が不十分な状況となっています。

このため、町内の乗合タクシーは、自家用車（白ナンバー）を用いた79条（住民ドライバー）による自宅前送迎の有償運送が考えられます。

(2) 町営バス北竜妹背牛線の増便と美葉牛への延伸

町営バス北竜妹背牛線の「美葉牛までの延伸」は「改善されれば利用する方」の要望や地域住民からの意見が多い状況となっています。また、滝川市や深川市とのアクセスについて、空知中央バス深川滝川線やJR函館本線との乗継ぎ利用等に対応していくためには様々な運行時間への対応が必要です。しかし、日中の時間帯においては朝夕の高校生の利用に対し、少数の利用であるためバスによる輸送では非効率的となってしまう可能性があります。

このため町営バス北竜妹背牛線は、増便によるJR函館本線や空知中央バス深川滝川線と妹背牛駅等での乗継ぎと美葉牛までの延伸により、利用ニーズに合わせた運行としていくことが考えられます。

(3) 町内輸送資源の一体化・輸送システムの導入検討

和ハイヤー、北竜町振興公社及びシルバー人材センターとも限られた運転手及び輸送車両にて、輸送能力の限界で運営しているケースが多くみられ、これらが補いながら運営することで輸送能力の最大化を図ることが考えられます。また、運転手は2種免許保有者だけではなく、新たに運送業務に従事する住民ドライバーの参画が必要になるため、輸送サービスの均一化が課題となります。

このため、和ハイヤー、北竜町振興公社、シルバー人材センターによる運行体制の一体化と住民ドライバーの募集により輸送資源を最大化し、輸送サービスの均一化を図る輸送システム導入を検討します。

第5章 地域公共交通計画の策定

5-1. 計画の基本的な方針

公共交通の現況やアンケート調査、乗降調査などの実態調査による課題及び公共交通の方向性と、総合計画など上位・関連計画から、地域公共交通計画の将来像や基本方針を以下のとおり定めます。

(1) 目指すべき将来像・基本方針

○北竜町総合計画の各種施策における公共交通が担うべき内容

<土地利用>	<高齢者等福祉>	<観光振興>
<ul style="list-style-type: none"> ・快適で機能的な市街地整備と連携が図られた公共交通の確保 ・ひとが集い、安心して暮らすことができることに寄与する公共交通の確保 ・医療・買物等の利便性の高い暮らしを支える公共交通の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動等の生きがいづくりを支える公共交通の確保 ・老人クラブ活動等を支える公共交通の確保 ・支え合いセンターなどの集いの場への交流を支える公共交通の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド観光や観光客の増加に対応する公共交通の確保 ・サンフラワーパークやひまわりの里での交流を支える公共交通の確保

○目指すべき将来像・基本方針

<p>○目指すべき将来像</p> <p style="text-align: center;">北竜町内に加え滝川市・深川市へのアクセス性向上により、 高齢者など交通弱者にやさしい公共交通の維持確保を図る</p>
<p>○基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ●方針1：滝川市・深川市等を含んだ広域的な視点に立った公共交通ネットワークを構築する。 ●方針2：自宅前送迎等により交通弱者にもやさしい効率的な地域公共交通を実現する。 ●方針3：町ぐるみで地域の生活交通を守り育てていくことにより、持続可能な地域公共交通を実現する。

(2) 計画の区域

本計画の区域は北竜町行政区域とします。

また広域公共交通とのアクセス性を維持することの目的地としては、滝川市・深川市及び妹背牛町を含めます。

(3) 計画の期間

本計画の期間は、2021年度（令和3年度）から2025年度（令和7年度）までの5年間としますが、滝川市・深川市への直接アクセスにあたっては、他市町の交通事業者等との調整が多数に及ぶため、2期計画（令和8年度から令和12年度）に跨った実現を目指します。

(4) 公共交通の機能分担と性格・役割

地域公共交通の基本理念と基本方針から、北竜町地域公共交通として位置づける各公共交通の機能分担、性格・役割を以下のとおり整理し、これを将来の公共交通体系とします。なお令和4年7月に策定された北空知4町地域公共交通計画と整合を図るものとします。

表 公共交通の機能分担と性格・役割

機能分類	性格・役割	
幹線交通 ・ JR 函館本線 ・ 北海道中央バス高速るもい号（バス会社による個別運行）	・ 中核都市である札幌市を結ぶ北海道の骨格となる公共交通軸 ・ 通勤、通学、通院、買物、観光など多様な目的に対応	
広域交通・地域間交通 ・ JR 留萌本線 ・ 沿岸バス留萌旭川線（地域間幹線系統） ・ 空知中央バス深川滝川線（地域間幹線系統）	・ 広域的な公共交通軸 ・ 通勤、通学、通院、買物、観光など多様な目的に対応	
生活圏交通	地域内フィーダー系統 ・ 町営バス北竜妹背牛線（変更）※ ・ 乗合タクシー・連絡施設間運行便	・ 市街地内及び市街地と郊外部との間の生活を支える公共交通 ・ 主に通学、通院、買物等の目的に対応
	その他交通 ・ 福祉有償運送 ・ デイサービス等無料送迎 ・ 北竜温泉等無料送迎 ・ スクールバス一般混乗	・ 町内及び町外の施設利用のための公共交通・送迎交通 ・ 主に通学・通院、買物、福祉、レクリエーション等の目的に対応

※：空知中央バス（深川）北竜線の廃止に伴い、町営バス北竜追分線から同北竜妹背牛線にルート変更



図 北竜町の公共交通体系

表 公共交通の機能分担と性格・役割（2期計画にて検討）

機能分類		性格・役割
幹線交通 ・ JR 函館本線 ・ 北海道中央バス高速るもい号（バス会社による個別運行）		・ 中核都市である札幌市を結ぶ北海道の骨格となる公共交通軸 ・ 通勤、通学、通院、買物、観光など多様な目的に対応
広域交通・地域間交通 ・ 沿岸バス留萌旭川線（地域間幹線系統） ・ 空知中央バス深川滝川線（地域間幹線系統）		・ 広域的な公共交通軸 ・ 通勤、通学、通院、買物、観光など多様な目的に対応
生活圏交通	地域内フィーダー系統 ・ 町営バス北竜妹背牛線（滝川市延伸検討） ・ 自家用有償運送（自宅前送迎） （町内及び滝川市・深川市間を直接運行）	・ 町内及び町内と町外との間の生活を支える公共交通及び施設送迎交通 ・ 主に通学、通院、買物、福祉、レクリエーション等の目的に対応

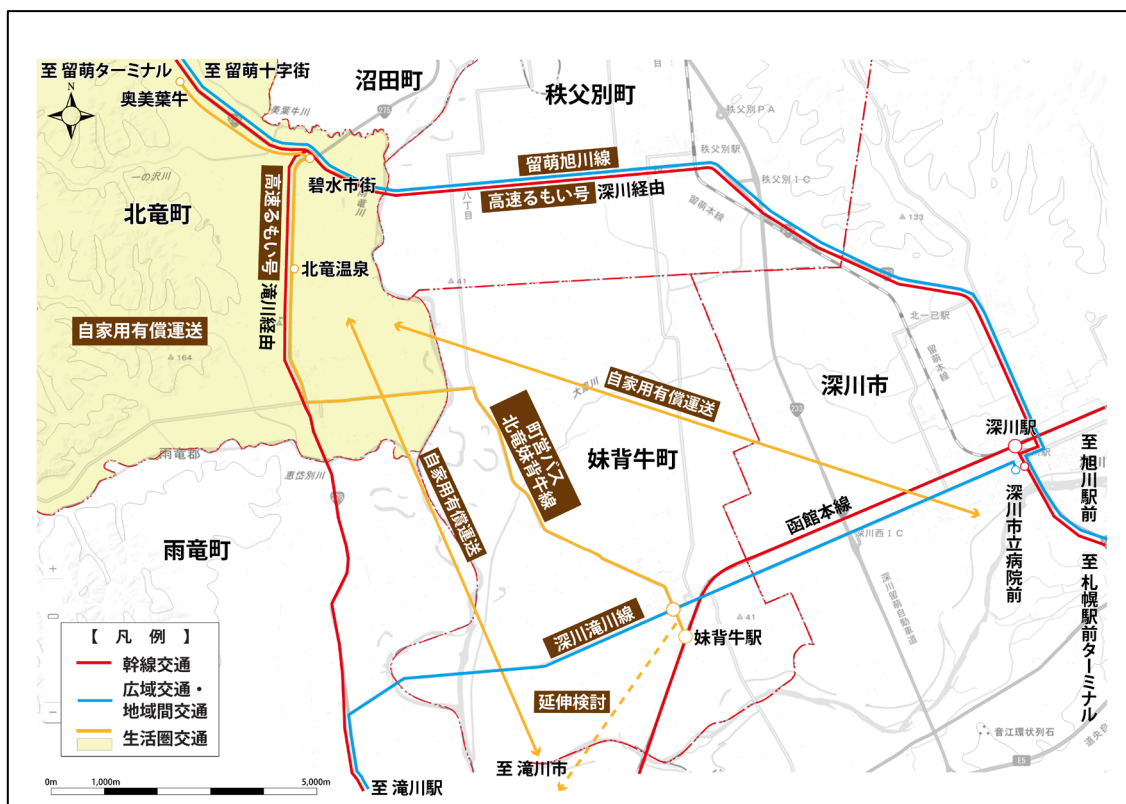
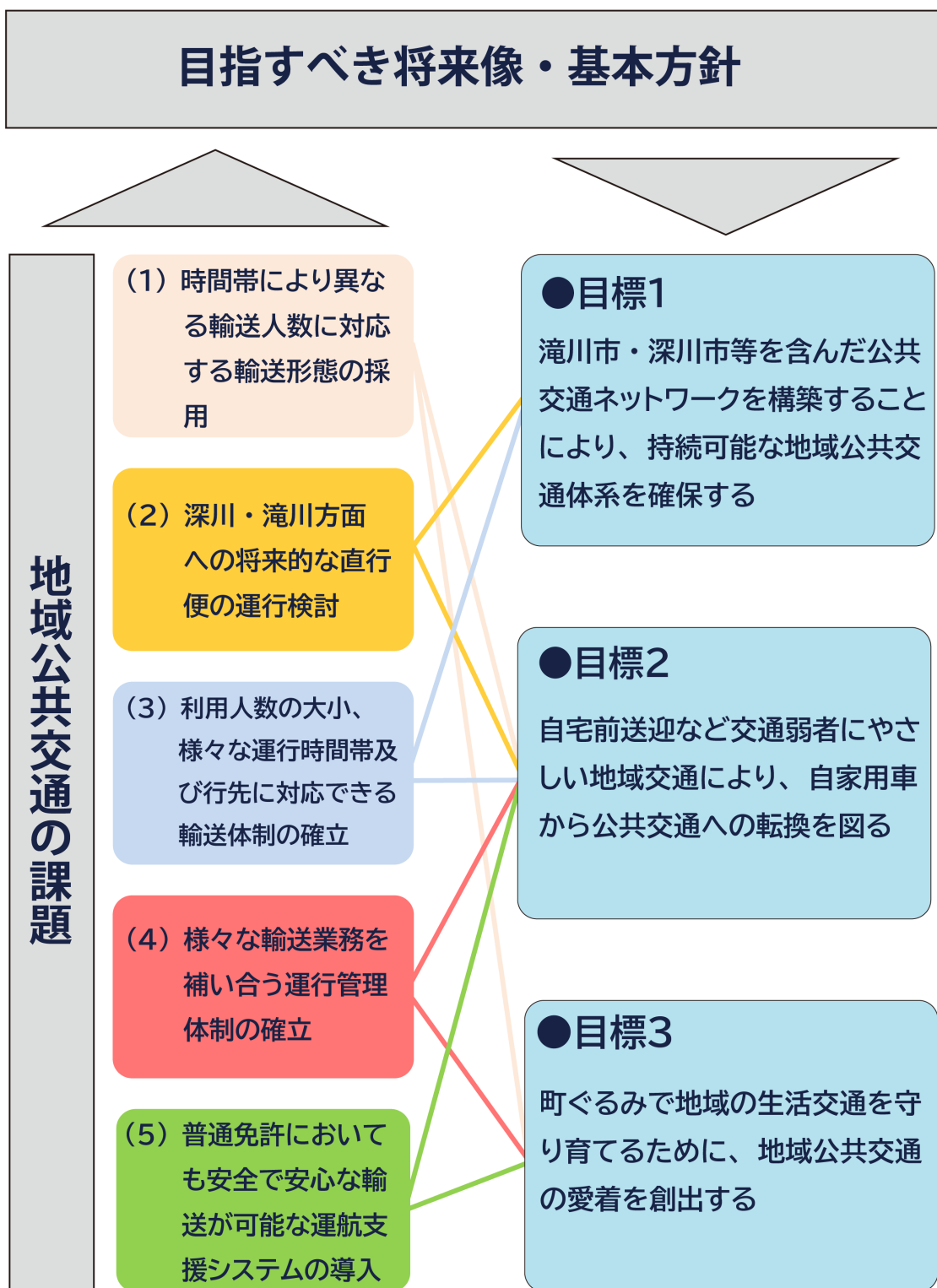


図 北竜町の公共交通体系（2期計画検討内容）

5-2. 計画の目標

(1) 基本目標

目指すべき将来像を具現化するために、公共交通の課題を踏まえ以下の3つを基本目標として設定し、「住民」、「交通事業者」及び「行政」の相互協力により、基本目標の実現を目指します。



(2) 評価指標・目標値

以下に基本目標に対応した評価指標・目標値を設定します。

基本目標 (略称)	評価指標		現況・現況値 (R6)	目標・目標値 (R7)	備考
(1) 持続可能な地域公共交通等を確保・維持する	広域公共交通の維持		北空知4町地域公共交通計画にて設定		
	町内公共交通の輸送人数等	輸送人数 収支率 行政負担額	10,907人/年 12.0% 12,077千円	12,448人/年 9.4% 18,325千円	注1 注2 注3
(2) 自家用車から公共交通への転換を促進する	高齢者運転免許証の自主返納者数		実施中	50人/2カ年	注4
	乗合タクシーなどの新規利用登録者数		新規登録 受付中	24人/2カ年	注5
(3) 地域公共交通への愛着を創出する	地域に親しまれる愛称の設定		—	愛称の設定	

注1 輸送人数

項目	令和6年度実績	令和7年度目標
町営バス北竜妹背牛線	6,444人 (うち北竜町6,396人、妹背牛町48人) ※3	7,985人 (うち北竜町7,937人※4、妹背牛町48人)
乗合タクシー・連絡施設間運行便	2,624人 ※1	
スクールバス一般利用	1,839人 ※2	
合計	10,907人 (うち北竜町10,859人、妹背牛町48人)	12,448人 (うち北竜町12,400人、妹背牛町48人)

※1 (R6.4.~R6.12) ×12/9

※2 (R6.4~R6.10) ×12/7

※3 R6.4~R6.12 実績

※4 住民アンケートQ1で「利用している」と「改善すれば利用する」を回答し、かつQ4の改善後の利用頻度を回答した方を積み上げた人数(下表参照)

町営バス北竜妹背牛線利用人数(アンケート調査結果からの利用ニーズ)

アンケート選択肢	週当り回数	往復回数 (年当り)	回答表(件)		年間利用者数(人数)		率※		年間利用者数(人数)		計
			一般	高校生	一般	高校生	一般	高校生	一般	高校生	
週に6,7日	6.5	678	0	7	0	4,746	0.610	0.667	0	3,166	3,166
週に4,5日	4.5	470	3	6	1,410	2,820	0.610	0.667	860	1,881	2,741
週に2,3日	2.5	260	5		1,300		0.610	0.667	793		793
週に1日	1	104	5		520		0.610	0.667	317		317
月に2,3日	0.625	66	19		1,254		0.610	0.667	765		765
月に1日(年12往復)		24	10		240		0.610	0.667	146		146
年に数日(年6往復)		12	1		12		0.610	0.667	7		7
年に1日(年1往復)		2	1		2		0.610	0.667	1		1
計	—	—	44	13	4,738	7,566	0.610	0.667	2,890	5,047	7,937

※Q1で「利用している」と「改善すれば利用する」の回答率

○人口推計

項目	R2	R3	R4	R5	R6	R7
① 国勢調査	1,724	—	—	—	—	—
② 社人研人口※	—	—	—	—	—	1,529
③ 住民基本台帳人口 各年1月1日	1,798	1,756	1,713	1,674	1,637	1,594 ②÷④
④ ①÷②	0.959	—	—	—	—	—
R6を1.00とした率	1.10	1.07	1.05	1.02	1.00	0.97

※国立社会保障・人口問題研究所

注2 収支率

○収益

項目	令和6年度実績	令和7年度目標
町営バス北竜 妹背牛線	1,080千円 (うち北竜町1,075千円、妹背牛町5千円※) ※輸送人数で按分	1,330千円 (うち北竜町1,325千円、妹背牛町5千円)
乗合タクシー	407千円※ ¹	
スクールバス 一般利用	161千円※ ²	
合計	1,648千円 (うち北竜町1,643千円、妹背牛町5千円)	1,898千円 (うち北竜町1,893千円、妹背牛町5千円)

※4 町営バス収益

現金収入(4~12月): 319,850円(1年換算: 426,467円)

定期券収入(4~1月): 544,700円(1年換算: 653,640円)

合計: 1,080,107円 = 1,080千円(R6)

R7年値1,080千円×利用人数増加率(7,937人÷6,444人) = 1,330千円

○運行費

項目	令和6年度実績	令和7年度目標
町営バス 北竜妹背牛線	10,159千円 (うち北竜町5,404千円、妹背牛町4,755千円)	16,657千円 (うち北竜町16,557千円、妹背牛町100千円)
乗合タクシー	3,566千円※ ¹	
スクールバス 一般利用	—	
合計	13,725千円 (うち北竜町5,404千円、妹背牛町4,755千円)	20,223千円 (うち北竜町20,123千円、妹背牛町100千円)

○町営バス北竜妹背牛線運行費用（R6年度予定ベース）

・運行委託費	: 6,960 千円
・車両費用	: 3,199 千円
▶燃料（軽油）	: 1,200 千円
▶保険料	: 208 千円
▶車検費用	: 14 千円
▶整備費用	: 638 千円
▶自動車借り上げ費	: 1064 千円
▶車両備品費	: 50 千円
▶重量税	: 25 千円
・合計	: 10,159 千円
・運行1便当たり運行費用	10,159 千円 ÷ 1,308 便※ = 7,767 円/便
・令和7年度運行便数	
平日定時（3便 + 2便） × 246日 × 100.0%	= 1,230 便
平日予約（2便 + 1便） × 246日 × 25.3%※	= 187 便
土曜予約（4便 + 2便） × 51日 × 13.5%※	= 41 便
日曜予約（4便 + 2便） × 68日 × 9.6%※	= 39 便
計	= 1,497 便/年
※R6.4～R12実績値（年換算 1,090 便 ÷ 10ヶ月 × 12ヶ月）	
・R7年度運行費用	1,497 便/年 × 7,767 円/便 × 20.2km ÷ 14.1km = 16,657 千円

○全運行費用に対する北竜町及び妹背牛町の按分

令和6年度北竜町区間	
・16,657 千円 × (7,937 人 ÷ 7,985) = 16,557 千円	
令和6年度 妹背牛町区間	
・16,657 千円 - 11,557 千円 = 100 千円	

○収支率

項目	令和6年度実績	令和7年度目標
収支率（収支率）	12.0% (うち北竜町 30.4%、妹背牛町 0.1%)	9.4% (うち北竜町 9.4%、妹背牛町 5.0%)

注3 行政負担額（運行費-収益）

項目	令和6年度実績	令和7年度目標
行政負担額	12,077 千円 (北竜町 7,327 千円、妹背牛町 4,750 千円)	18,325 千円 (北竜町 18,230 千円、妹背牛町 95 千円)

注4 高齢者運転免許証の自主返納者数

- ・R3年度からR5年度までの高齢者運転免許自主返納サポート事業対象者：74人（25人/年）
R6年度とR7年度で50人

注5 乗合タクシーの新規登録者数

- ・R3年度からR5年度まで36人新規登録（13人/年）
- ・R6年度とR7年度で26人新規登録

5-3. 計画に位置づける取組み及び実施主体

計画の目標を達成するために、地域公共交通計画に位置づける取組みを以下のとおり整理します。

また次頁以降に取組みの概要及び実施主体を整理します。

基本目標（略称）	取組み
(1) 持続可能な地域公共交通体系の確立	①幹線交通・広域交通・地域間交通等の維持
	②町営バス北竜妹背牛線的美葉牛延伸と利用ニーズに対応する運行便の増便
	③乗合タクシー及び連絡施設間運行便の維持
	④スクールバス一般利用
	⑤デマンド交通支援プログラムの維持
(2) 自家用車から公共交通への転換	①高齢者運転免許証自主返納サポート事業の維持
	②通院等タクシー利用料助成事業（なごみハイヤー）
	③新規利用登録者の募集
(3) 地域公共交通の愛着を創出する	①利用登録者への意識調査実施
	②町営バスや乗合タクシーの愛称の募集とラッピングの検討
	③町営バス及び乗合タクシーの利用案内パンフレット等の作成

(1) 持続可能な地域公共交通体系の確立

①幹線交通・広域交通・地域間交通等の維持

【現状】
<p>○幹線交通</p> <ul style="list-style-type: none">・JR 函館本線は幹線交通として中核都市である札幌市及び旭川市等を結ぶ本道の骨格となるネットワークを担っている。 <p>○広域交通</p> <ul style="list-style-type: none">・JR 留萌本線及び高速るもい号は、中核都市である札幌市及び旭川市や地域中心都市である留萌市、滝川市及び深川市と本町を結ぶ交通で、通勤、通学、買物、通院、観光等の多様な目的の利用を担っている。※地域間交通・生活圏交通の役割も担う <p>○地域間交通</p> <ul style="list-style-type: none">・深川滝川線及び留萌旭川線は、地域中心都市である留萌市、滝川市及び深川市と本町を結ぶ交通で、通勤、通学、買物、通院等の地域間を跨ぐ生活目的の利用を担っている。※生活圏交通の役割も担う
【事業概要】
<p>○幹線交通の確保：JR 函館本線（JR 北海道）</p> <ul style="list-style-type: none">・JR 函館本線は利用者数の増加に向けて利用促進を図ります。 <p>○広域交通：JR 留萌本線（JR 北海道）、高速るもい号（北海道中央バス）</p> <ul style="list-style-type: none">・JR 留萌本線（深川駅～石狩沼田駅）は令和8年3月末での廃線が決まっているため、廃線後の広域交通について住民等の移動実態やニーズを踏まえ、最適化を検討しながら移手段の確保に努めます。・高速るもい号は利用者数の増加に向けて利用促進を図ります。 <p>○地域間交通：深川滝川線（雨竜経由）（空知中央バス）、留萌旭川線（沿岸バス・道北バス）</p> <ul style="list-style-type: none">・深川滝川線（雨竜経由）は地域公共交通確保維持改善事業等を活用し、沿線住民の日常生活の移動を持続的に確保していきます。・留萌旭川線は地域公共交通確保維持改善事業等を活用し、沿線住民の日常生活の移動を持続的に確保していきます。
【実施主体】
<ul style="list-style-type: none">・JR 北海道、北海道中央バス（株）、空知中央バス(株)、沿岸バス(株)・道北バス(株)

②町営バス北竜妹背牛線的美葉牛延伸と利用ニーズに対応する運行便の増便

【現状】

○経緯

- ・町内で対応できない通院、通学等に対応するために、妹背牛駅（JR 函館本線）及び碧水（沿岸バス・道南バス）での乗継が可能になるよう町営バス北竜妹背牛線を運行しています。

○利用ニーズ

(1) 運行時間帯

- ・高校生の登下校は、登校が6時台から8時台で、下校は16時台から20時台の時間帯に集中する一方、一般の利用は7時台から18時台の時間帯となっています。

(2) 人数

- ・高校生の登下校利用は利用人数が多く、一般の利用は少人数が分散する状況となっています。

(3) 他市町へのアクセス

- ・滝川市、深川市、妹背牛町等へのアクセスの要望があります。

【事業概要】

○運行内容

- ・定時定路線と予約（不定期）定路線による運行とし、起終点を碧水から奥美葉牛へ延伸します。
- ・高校生の登下校や、一般利用のニーズに対応するため、増便を行います。

表 町営バス北竜妹背牛線の運行回数の比較

項目	R6	R7	R7	回数・所要時間の差
平日	7	9	16	+2回、+9回
土曜	6	6	6	0回
日祝	6	6	6	0回
所要時間	約25分	約35分		+10分

○ドライバーの確保

- ・増員に対応するため、町内等から就業可能な方を募集することでドライバーを確保します。

○料金の考え方

- ・現金、回数券、通学定期券により対応します。
- ・今後、人件費及び燃料費の高騰に合わせた運賃の見直しを検討します。

○運行車両

- ・高校の登下校が集中する時間帯に対応するためには、マイクロバス等の中型バスが必要となりますが、日中の一般利用は分散するため、普通運転免許証でも運転可能な小型車両を複数確保します。

○財政的な支援

- ・運行便数の増便による運行費用の増加に対応するために、地域公共交通利便増進事業による地域内フィーダー系統国庫補助金のかさ上げ検討・支援を要望します。
- ・運行車両の確保にあたっては車両減価償却費等国庫補助金による支援を要望します。
- ・運行を維持するための新たなドライバーの確保については、普通免許証保有者に必要な運転者講習の費用について、車両減価償却費等国庫補助金による支援を要望します。

【実施主体】

- ・北竜町、(株)北竜町振興公社、和ハイヤー(有)

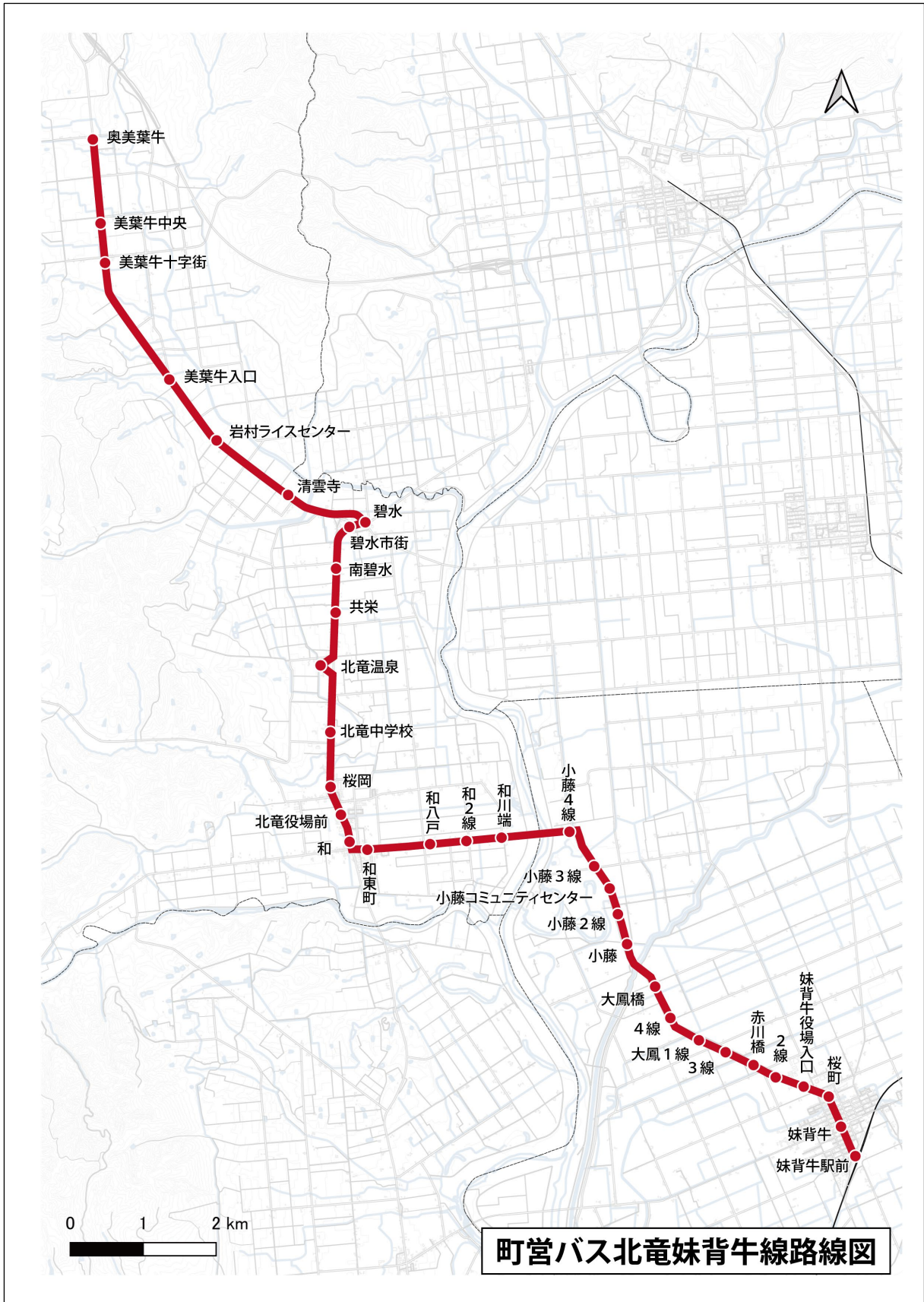


図 町営バス北竜妹背牛線路線図

③乗合タクシー及び連絡施設間運行便の維持

【現状】
<p>○経緯</p> <ul style="list-style-type: none">・平成 26 年 10 月からハイヤー車両を併用しながら自宅前送迎の予約方式により本格運行を開始し、地域住民の通院、買い物、温泉利用などの生活交通の確保に寄与してきました。 <p>○輸送人数</p> <ul style="list-style-type: none">・年間輸送人数は令和 3 年度まで増加し続けましたがその後減少に転じ、令和 5 年度には約 2,300 人を輸送しています。 <p>○運行の課題</p> <ul style="list-style-type: none">・和ハイヤーによるバス事業(4条)により運行していますが、現在の運行収益ではドライバーの増員は現実的でなく、利用ニーズに対応した運行体制とすることが難しい状況です。
【事業概要】
<p>○運行内容</p> <ul style="list-style-type: none">・乗合タクシーは「美葉牛・碧水方面」と「竜西・和方面」の2つの区域内の自宅前と市街地を中心とした公共・公益施設などからなる目的施設(連絡施設)の間を輸送する自宅前送迎を引き続き運行します。・自宅前と連絡施設間の送迎の他に、連絡施設間での輸送も行います。 <p>○料金の考え方</p> <ul style="list-style-type: none">・現金、回数券により対応します。・今後、人件費及び燃料費の高騰に合わせた運賃の見直しを検討します。 <p>○運行車両</p> <ul style="list-style-type: none">・和ハイヤーの営業車両を乗合タクシーの車両として併用します。 <p>○財政的な支援</p> <ul style="list-style-type: none">・地域内フィーダー系統国庫補助金の交付による支援を要望します。
【実施主体】
<ul style="list-style-type: none">・和ハイヤー(有)

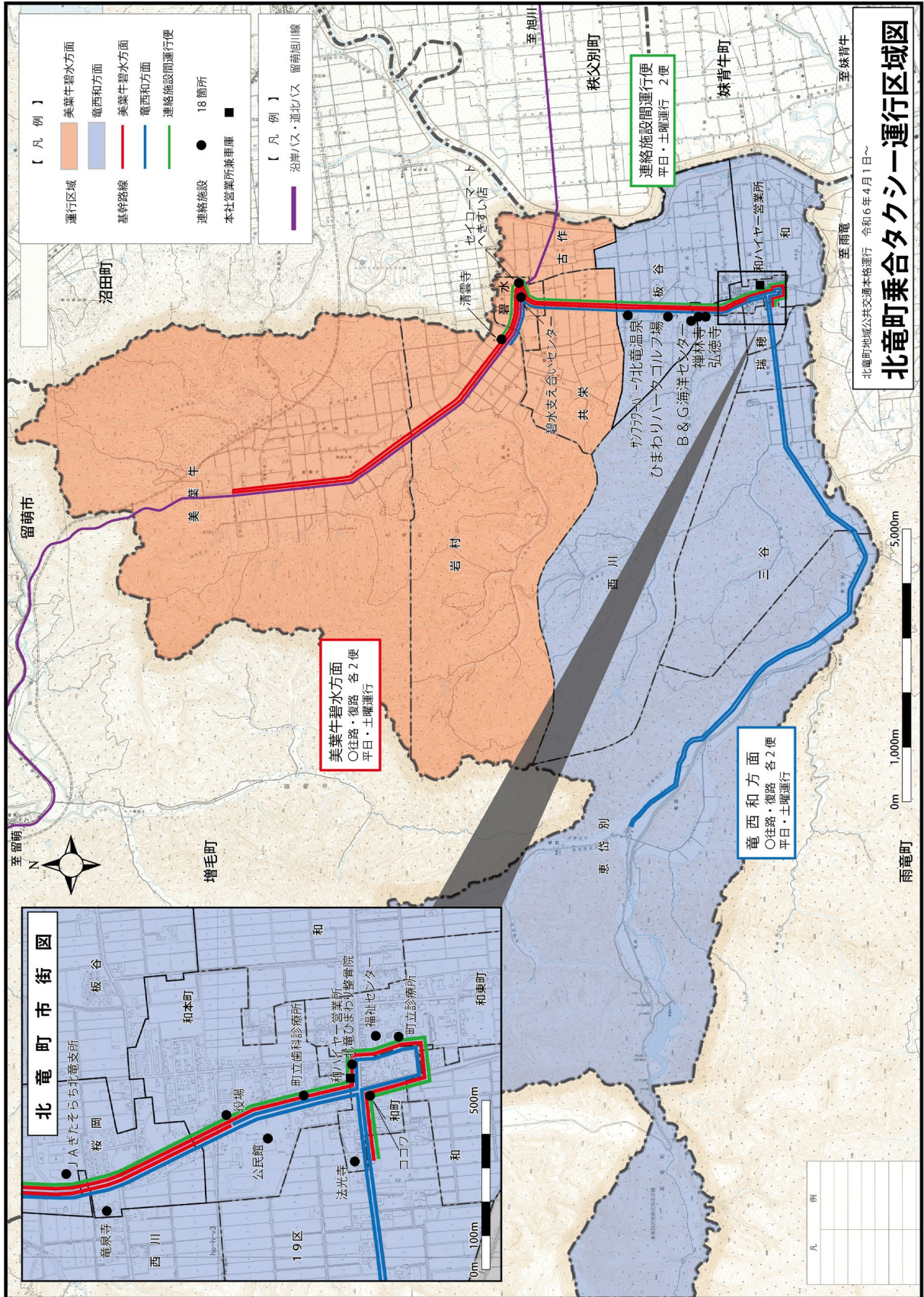


図 乗合タクシー運行区域図

④スクールバス一般利用

【現状】
○経緯 ・平成 26 年以前は無償による一般混乗を行っていましたが、一般利用の増加や一般利用専用便の運行に伴い、平成 27 年度からは有償運送を行っています。
○輸送人数 ・平成 27 年度以降の輸送人数は概ね減少傾向で、令和 5 年度は約 1,900 人を輸送しています。
○運行の課題 ・スクールバス路線は、「美葉牛線」、「碧水線」及び「竜西線」の 3 路線を運行していますが、町内貸切バス事業者の廃業や運転手の高齢化により、一般混乗の継続が課題となっています。
【事業概要】
○運行内容 ・目標年次の令和 7 年度までは一般混乗を維持しますが、自宅前送迎の充実に伴い、一般混乗の廃止を含め検討していきます。
【実施主体】
・北竜町、(株)北竜町振興公社、その他交通事業者

⑤デマンド交通支援プログラムの維持

【現状】
・乗合タクシーの運行にあたっては、乗車予約や運行便により乗車位置が異なるため、予約情報を適切に管理して日々の運行計画を立案する必要があります。
【事業概要】
・日々の予約情報から当該運行便の乗車位置、降車位置を抽出して、運行計画を立案する予約プログラムを引き続き維持していきます。
【実施主体】
・北竜町

(2) 自家用車から公共交通への転換を促進する

①高齢者運転免許証自主返納サポート事業の維持

【現状】

○経緯

- ・運転免許を返納してしまうと移動手段が無くなってしまいますので、高齢者は返納できずに自家用車を運転せざるを得ない状況です。
- ・高齢になると身体能力の低下や認知機能が低下して、事故発生要因となることが考えられます。
- ・令和4年5月から70歳以上の方が運転免許を更新する場合は、高齢者講習の受講、75歳以上の方は高齢者講習と併せて、認知機能検査等が義務化されました。

○制度の利用者数

- ・平成27年から令和4年の運転免許返納者は延べ153人となっています。

【事業概要】

- ・65歳以上の町民が運転免許を自主返納した場合に5年間有効の50,000円分(500円券×100枚)のタクシーチケットを支給しています。
- ・令和6年度からは10年間有効の50,000円分のタクシーチケットを支給しています。

図 高齢者運転免許証自主返納サポート事業について

出典：2024 広報6月号



- 令和6年度より
免許返納によるハイヤー券の有効期間が10年になります
※運転免許証を自主返納した65歳以上の方にハイヤー券を交付しています。

◎対象者

北竜町にお住まいで、運転免許証を自主返納される65歳以上の方
(自主的に返納せず、運転免許証の有効期限が切れて失効した方は対象外)

◎手続きの仕方

1. 運転免許証を最寄りの警察署へ返納し、「運転経歴証明書」の発行を依頼
【持参するもの】

- ①運転免許証 ②印鑑 ③2,400円(申請手数料と写真代)
- ④写真(縦3センチ×横2.4センチ)1枚

※写真を用意できる場合は、写真代は必要ありません。
※申請手数料と写真代の領収書は役場での申請に必要となりますので、
無くさないで下さい。
※運転免許証については、この時点で失効します。

2. 運転経歴証明書が発行されたら、役場で申請書の手続き
3. 後日、ハイヤー券(50,000円分)を交付

※ハイヤー券は和ハイヤーのみで利用できます(申請人本人が乗車する場合のみ)。
※ハイヤー券の有効期間は、10年間です(令和6年度より)。

◎ご自宅から沼田警察署までの送迎を行っています。

運転免許証を自主返納したいが、警察署まで行く手段がないなどの理由で、運転免許証を返納出来ない方の為に、自宅から沼田警察署までの無料送迎を行っていますので、詳しくは役場総務課庶務係までご連絡下さい。

【問い合わせ先】 役場総務課庶務係 TEL: 34-7028

【実施主体】

- ・北竜町

②通院等タクシー利用料助成事業（なごみハイヤー）

【現状】

- 町内民間バス路線は滝川北竜線（北海道中央バス）が令和4年3月末、（深川）北竜線（空知中央バス）が令和6年3月末で廃止となったため、乗継なしで滝川市及び深川市とのアクセスが困難になり、特に障がいをお持ちの方や高齢者の通院等の支障となっています。

【事業概要】

- 生活に必要な町外への移動を支援し、生じた交通費の一部を助成する「なごみハイヤー助成」を実施します。
- 65歳以上若しくは身体障害者手帳の交付を受けている方を対象に、町外へ通院や買い物へ行く場合に、1乗車につきハイヤー運賃の1/2相当分（年12万円分）を助成します。

「通院等タクシー利用料助成事業（なごみハイヤー）」の申請を忘れていませんか？

申請する


■申請は役場企画振興課にて受け付けています。なおマイナンバーカードなどの身分証明書が必要となります。本人が申請に来られない場合はご相談ください。
【対象者】：北竜町に住所を有し、65歳以上が身体障害者手帳（1～3級）の交付を受けている方

利用する

① 予約をする

■役場企画振興課でなごみハイヤー利用券の交付後、利用日時が決まったら、「和ハイヤー（TEL 34-2659）」に予約してください。

- 乗車したい2時間前までに予約のうえご利用ください。
- 和ハイヤー以外のタクシー会社では利用できません。
- なごみハイヤー利用券は町外に通院や買い物に行く場合に利用できます。（主な行き先：滝川市、深川市、妹背牛町、秩父別町、沼田町、雨竜町 等）
- 町内での利用は乗り合いタクシーを利用してください。
- 希望通りに予約できない場合もありますのでご了承ください。



② ハイヤーを利用する


■予約日に自宅等から、町外の病院や商業施設・公共交通機関等に行く場合に利用してください。なごみハイヤー利用券は交付を受けた本人のみ利用できます。

③ 乗車料金を支払う

■なごみハイヤー利用券は1乗車につき乗車料金の半額まで利用できます。お釣りは出ません。降車時、運転手にハイヤー利用券をお渡しください。

例えば…、和から深川市立病院までの利用“片道6,300円の乗車料金”とすれば…

【ケース①】 なごみハイヤー利用券のみ持っている方	
なごみハイヤー利用券	： 3,000円
現金（利用者負担）	： 3,300円
【ケース②】 なごみハイヤー利用券と高齢者運転免許返納サポート事業で交付されたタクシー利用券を持っている方	
なごみハイヤー利用券	： 3,000円
高齢者運転免許返納サポート事業タクシー利用券	： 3,000円
現金（利用者負担）	： 300円



※あくまで利用の一例です。目的地により乗車料金は変わるので、利用券の額も変わります。
 ※利用期限は令和7年3月31日となっております。期限を過ぎての利用はできません。

予約先・問い合わせ先

■利用予約は … 【和ハイヤー：TEL 34-2659】
 ■不明な点は … 【役場企画振興課企画係：TEL 34-7029】 までお電話下さい。

図 「通院等利用料助成事業（なごみハイヤー）」

出典：2024 広報 8月号

【実施主体】

- 北竜町

③新規利用登録者の募集

【現状】

- ・利用登録者数は平成31年10月が226人、令和6年10月が219人で、5箇年で新規登録者が57人、死亡や転出で64人となっています。

【事業概要】

- ・町営バスや乗合タクシーの運行内容の変更時や、広報誌、地域住民への懇親会で定期的に利用登録者に周知を図り新規利用登録者の増加につなげていきます。

図 乗合タクシーの利用登録の呼びかけ

出典：2024 広報6月号



乗合タクシーを 利用してみませんか

- 乗合タクシーは自宅や連絡施設間の移動に利用できます
- ◎連絡施設
福祉センター、町立診療所、ココワ、町立歯科診療所、公民館、役場、サンフラワーパーク北竜温泉、JAきたそらち北竜支所、セイコーマートへきすい店、B&G海洋センター（プール）、北竜ひまわり整骨院、ひまわりパークゴルフ場、碧水支え合いセンター、禅林寺、弘徳寺、龍泉寺、法光寺、清雲寺
- ◎運賃
200円 ※障がい者手帳などを持っている方の運賃は半額になります。
降車時に手帳等の提示をお願いいたします。
現金または回数券でお支払いください。

- 乗合タクシーを使ってみたいけれど利用の仕方がわからない方へ
- ①事前に役場で登録をお願いします。
企画振興課企画係に電話（TEL 34-7029）してください。
利用するかどうか未定でも、まずは登録しておくことで利用できます。
登録後に、自宅に登録証とパンフレットを送付いたします。
- ②利用したい日と便が決まったら、和ハイヤーに電話（TEL：34-2659）して、「乗合タクシーの予約」とお伝えください。
「利用日」と「利用便」と「連絡施設」、「行き」「帰り」「連絡施設間」のいずれかを伝えてください。
また、「介助者」がいる場合は、そのことも伝えてください。
利用方法を和ハイヤーの方が丁寧に教えてくれますので、まずは電話してみてください！

【問い合わせ先】 役場企画振興課企画係 TEL：34-7029

【実施主体】

- ・北竜町

(3) 地域公共交通への愛着を創出する

①利用者登録者への意識調査実施

【現状】
・民間バス路線の廃止の代替路線として、町内公共交通を運行していますが、毎年のダイヤ改正や路線の統廃合などにより、その都度ルートや運行時間を変更しているため、実際の利用者ニーズと合致しているのか意向把握が必要な状況となっています。
【事業概要】
・利用者のニーズと合致した町内公共交通等を運行していくために、アンケート調査など定期的な利用ニーズ把握調査を実施します。
【実施主体】
・北竜町

②町営バスや乗合タクシーの愛称の募集とラッピングの検討

【現状】
・日々の生活においては移動のほとんどが自家用車によるもので、公共交通を利用したことが無い世代が増加していると推測されます。 ・公共交通を身近に感じることができる機会を確保して、利用者の増加につなげていくことが大切です。
【事業概要】
・民間路線バス、町営バス及び乗合タクシー等の体験乗車を小中学校の総合的な学習授業にとり入れるなど、子どもの時から公共交通に慣れ親しむ機会の提供を検討します。 ・総合的な学習授業を使って、町内公共交通の愛称や車両のラッピングデザインのアイデアを考え、実現化することにより、愛着の持てる地域公共交通を創出します。
【実施主体】
・北竜町

③町営バス及び乗合タクシーの利用案内パンフレット等の作成

【現状】
・JR 函館本線や空知中央バス深川滝川線の運行時刻の変更に合わせ、町営バス北竜妹背牛線や乗合タクシーの運行時刻等を半年に一度程度更新している状況です。
【事業概要】
・JR 函館本線や空知中央バス深川滝川線の運行時刻の変更や、町内公共交通の改定に合わせた利用案内パンフレット等の更新と今後とも引き続き行っていきます。
【実施主体】
・北竜町

5-4. 計画の進行管理

(1) 取組みの期間

本計画における個々の取組みの期間は、以下に示すとおりです。

取組み	2021 年度 R 3	2022 年度 R 4	2023 年度 R 5	2024 年度 R 6	2025 年度 R 7
(1) 持続可能な地域公共交通等を確保・維持する					
①幹線交通・広域交通・地域間交通等の維持	維持				
②町営バス北竜妹背牛線的美葉牛延伸と利用ニーズに対応する運行便の増便	準備	町営バス北竜追分線		町営バス北竜妹背牛線	同左延伸・増便
③乗合タクシー及び連絡施設間運行便の維持	現行の運行	本運行計画		運行改定	運行改定
④スクールバス一般利用	一般混乗				
⑤デマンド交通支援プログラムの維持	維持				
(2) 自家用車から公共交通への転換を促進する					
①高齢者運転免許証自主返納サポート事業の維持	維持				
②通院等タクシー利用料助成事業（なごみハイヤー）	—	—	—	実施	実施
③新規利用登録者の募集	募集				
(3) 地域公共交通への愛着を創出する					
①利用登録者への意識調査実施	—			実施	—
②町営バスや乗合タクシーの愛称の募集とラッピングの検討	—				検討
③町営バス及び乗合タクシーの利用案内パンフレット等の作成	必要に応じて改定				

(2) 計画の達成状況の評価

基本的な方針に基づき計画に位置づける取組みを進めていくにあたって、取組みの実施スケジュールに関するPDCAサイクルや、各取組みについてのPDCAサイクルを確実に実施し、北竜町地域公共交通活性化協議会において取組みの検証結果を共有化します。

具体的には、毎年度、計画の目標から定量的な目標を設定し、評価を実施するとともに、5年間の目標に対しての進捗状況を毎年度確認しながら、計画目標年度（令和7年度）には、計画全体の評価及び見直しを実施します。

ただし、令和3年度は準備期間となるため、数値目標に対する評価・検証は令和4年度から実施します。

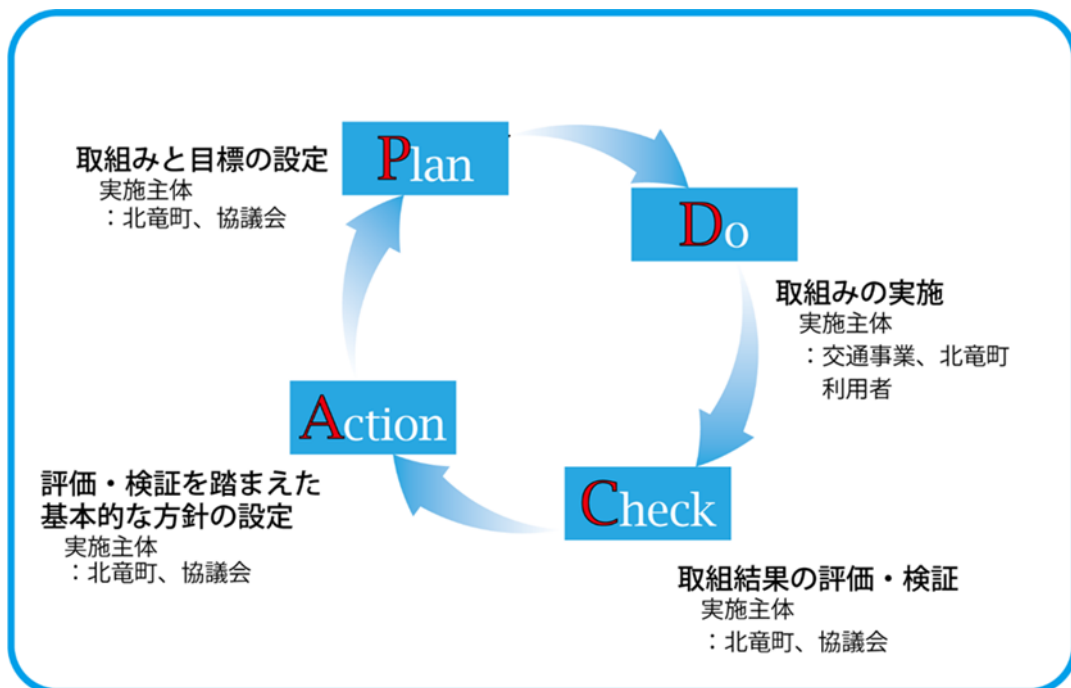


図 北竜町地域公共交通活性化協議会におけるPDCA